

「障害者の高等教育に関する全国調査'93」 分析結果資料（その2）

天 野 栄 一
大 西 哲
佐 藤 尚 人
都 築 一 治

前回「『障害者の高等教育に関する全国調査'93』分析結果資料」目次

1. 調査の概要
2. 本資料の構成
3. 単純集計の結果
4. 「学部属性」と「入試時の問い合わせ」との関係
5. 「学部属性」と「入学試験時の受け入れ、在籍状況」との関係

今号「『障害者の高等教育に関する全国調査'93』分析結果資料（その2）」目次

はじめに

6. 「学部属性」と「障害学生への対応（施設・設備・備品）」との関係
7. 「学部属性」と「障害学生への配慮」との関係

以下、次号（予定）

8. 「学部属性」と「障害学生への制度的対応」との関係
9. 「学部属性」と「障害学生を支援する人的資源」との関係
10. 「学部属性」と「障害者の受け入れに関する話し合い」との関係
11. 「学部属性」と「障害学生への就職指導」との関係

はじめに

以下の資料は、『障害者の高等教育に関する全国調査'93』分析結果資料（流通経済大学・社会学部論叢第4巻第2号、pp.119-170 1994年）で取り上げなかった項目のクロス集計表からなっている。本資料が取り上げるのは、前回資料で調査項目をA～Iに分類したうちの、A（学部の属性）、D（障害学生の在籍）と下記E・Fとの関係である。

E. 障害学生用の施設・設備・備品の配備に関する項目

F. 障害学生に対する配慮に関する項目

こうした集計項目の違いの他に、以下の資料には前回示したものと異なる点がいくつかある。第1は、集計した総学部数が前は768であったものが、今回は767に減っている点である。これは前回の集計後、データを再検討した結果、同一大学の学部に関して不適当なデータが2ケース見つかり、このうち1ケースを削除したためである。

前回と異なる第2点目は、調査票の中の「上記の…はない」という問の扱いである。今回集計した調査票の項目、問19から問22まででは、障害学生に対する設備・備品・配慮などの個々の項目の有無を聞いている。そして、それぞれの設問の最後に「上記の…はない」か否かを聞いて、障害学生への対応がなされているか否かを確認している。前回の単純集計結果では、「上記の…はない」の回答結果を参照せずに個別の対応項目の有無を集計していた。このため、「上記の…はない」にのみ回答し、他は無回答であった学部は「不明」として個々の項目の集計からは除かれていた。今回は、「上記の…はない」にのみ回答したケースも、各項目では「対応なし」と回答したとして集計している。その結果、各質問項目において不明回答が2～3ケース減少している。

第3は、クロス集計の一方の変数となる「学部の属性」としていくつか新たなものを加えている点である。加えたのは、女子大か共学か、設立の理念として宗教系の理念を持つか否か、当該学部障害学生が在籍しているかあるいはかつて在籍していたか否かなどである。障害学生の在籍経験は、在籍した学生が軽度障害者であるのか重度障害者であるのか、在籍した障害者の障害の種類（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害）ごとにみている。さらに一部の項目については、大学・学部の創立年度、大都市の近郊か否かでみた学部の所在地などを「学部の属性」として分析している。

なお、ここでひとつ断っておかなければならない点がある。それは、障害学生の在籍経験の有無ごとの分析結果で、例えば「重度障害学生の在籍経験がない」に分類された学部は障害学生の在籍経験が全くなかったかといえ、必ずしもそうではない点である。「重度障害学生の在籍経験がない」に分類された学部でも、軽度障害学生の在籍経験を持

っているかもしれない。逆に、重度障害学生の在籍経験を持っていたとしても軽度障害学生の在籍経験は持っていないかもしれない。肢体不自由学生の在籍経験がなくても、視覚障害学生の在籍経験はあるかもしれない。このように、在籍経験の有無はあくまで「当該障害の」学生に関してのみ言及しているものであり、他の障害学生の在籍経験までを情報として含んではいない。

6. 「学部の属性」と「障害学生への対応(施設・設備・備品)」との関係

この章では、「文系・理系」「国公立・私立」「学生数でみた学部の規模」「学部数でみた大学の規模」「地域」「共学校・女子大」「宗教系・非宗教系」「大学の創立年度」「学部の創立年度」及び「学部の所在地」の10の学部の属性と「障害学生の在籍の有無（軽度・重度）」とを取り上げ、それらと各大学・学部の障害学生に対する具体的なハード面での対応（施設・設備・備品）との関係を見ていく。調査票では、障害者むけの施設・設備・備品の有無を一つずつ尋ねている。それらの施設・設備・備品は「肢体不自由の学生」「視覚障害の学生」「聴覚障害の学生」の3つの分類されている。そこで、ここでも3障害種類別に回答を分析していくことになる。

それぞれの表は、まず3障害種類ごとの全体的なクロス集計結果（表のA）が並び、次に各障害ごとの全質問項目に対するクロス集計結果（表のB）が続いている。各障害種類ごとの質問項目は、「肢体不自由の学生」で17項目、「視覚障害の学生」で19項目、「聴覚障害の学生」で7項目である。障害の種類によって質問の項目数に違いがあるが、これらが現時点で考えられる各障害に対応する施設・設備・備品の代表的なものであるからだ。また、

(1) 各大学・学部が障害学生に対するハード面での対応を図るさい、とくに考慮の対象とする障害の種類

(2) そうして図られる対応により最も便宜を受ける障害の種類

などに応じて、それぞれの対応する項目は分類されている。このため場合によっては、全ての障害学生が利用しうる項目を一障害種類に分類しているケースもある（これはとくに肢体不自由の学生に対する対応項目の中で見られる）。

ところで調査票では、各学部に対してそれぞれの施設・設備・備品の有無や整備状況を単純に尋ねていない。質問はそれぞれの学部に「障害学生が在籍している・仮に在籍していた場合」に、各施設・設備・備品の「利用が可能」かどうかを尋ねている。このような多少回りくどい表現を選んだのは、本調査が基本的に「大学」ではなく「学部」を対象とした調査であるからだ。つまり、大学単位では幾つかの施設の整備が行われているとしても、必ずしも各学部でそれらの施設の共同利用ができるとは限らないからだ。たとえば、同一の大学で学部の所在地が異なる場合、ある学部では「車椅子用のトイレ」

が整備されていても、別の学部ではそのトイレを利用できないことがある。また逆に、ある学部で用意された設備を別の学部の障害学生が利用できることもある。そこで、本調査ではこうしたケースを考慮して、各学部に所属する施設・設備・備品の有無ではなく、各学部でこうした施設などの利用が可能かどうかを尋ねている。さらに「障害学生の在籍の有無にかかわらず」という一般的な聞き方ではなく、「障害学生が在籍している（在籍あり）・仮に在籍していた（実際には在籍していない）場合」という聞き方をしている。「障害学生が在籍していない場合」では、事実上、各施設などの利用が起これないが、その場合でも仮に在籍していたという仮定のもとで、「利用の可能性」を調べるためである。

なお表中の「施設などの利用が可能」というのは、正確には障害種類ごとの「施設・設備・備品の利用が可能」という意味であり、「施設などの利用が不可」というのは、それらの「施設・設備・備品の利用ができない」という意味である。このように表中の表現は、作表の利便のために一部簡略化されている。表に示されているパーセントは、回答のあった学部数を母数にして求められている。ただし、表のBは全て複数回答であり、その合計のパーセントは100.0を越えている。また3障害種類ごとの重度・軽度別の分析で、「肢体不自由の学生」の重度とは「車椅子使用者」で軽度は「杖などの使用者」、「視覚障害の学生」の重度とは「全盲」で軽度は「弱視」、「聴覚障害の学生」の重度とは「聾者」で軽度は「難聴」である。

6-1 「文系・理系別」及び「国公立・私立別」と「障害学生に対する対応（施設・設備・備品）」との関係

肢体不自由の学生、視覚障害の学生、聴覚障害の学生に対する全国の各大学・学部の施設・設備・備品での対応を、文系・理系別と国公立・私立別に分析したものが表6-1-1から表6-1-6である。

まず全国の各大学・学部で何らかの（対応項目のうち一つでも）施設・設備・備品の利用が可能かどうかをまとめた最初の3つの表を見ると、回答のあった学部のうち、肢体不自由の学生では文系で90%、理系では75%を越える学部で、何らかの施設などの利用が可能である。視覚障害と聴覚障害の学生に対する対応では、視覚障害の文系で34%、理系では14%、また聴覚障害の文系で13%、理系では約6%である。このように施設・設備・備品での対応は、文系が理系を約10%から20%の割合で上回っている。これに対して国公立・私立別の対応では、肢体不自由の場合に国公立で82%、私立で84%、視覚障害の場合に国公立で26%、私立で26%と、大学・学部の設立主体による違いはほとんど見られない。しかし聴覚障害の場合では、国公立で約7%、私立で11%と若干だが私立が国公立を上回っている。

表6-1-1 文系・理系別及び国公立・私立別にみた
肢体不自由の学生に対する対応（A）

	文系	理系	その他	国公	私立
施設などの 利用が可能	387 90.42	181 75.10	43 70.49	197 82.43	414 84.32
施設などの 利用が不可	41 9.58	60 24.90	18 29.51	42 17.57	77 15.68
Total	428	241	61	239	491

不明＝37

不明＝37

（上段の数字は該当の学部数、下段の数字は%、以下の表も同様）

表6-1-2 文系・理系別及び国公立・私立別にみた
視覚障害の学生に対する対応（A）

	文系	理系	その他	国公	私立
施設などの 利用が可能	133 34.19	30 13.95	8 14.55	53 25.73	118 26.05
施設などの 利用が不可	256 65.81	185 86.05	47 85.45	153 74.27	335 73.95
Total	389	215	55	206	453

不明＝108

不明＝108

表6-1-3 文系・理系別及び国公立・私立別にみた
聴覚障害の学生に対する対応（A）

	文系	理系	その他	国公	私立
施設などの 利用が可能	48 13.15	12 5.77	2 3.64	13 6.77	49 11.24
施設などの 利用が不可	317 86.85	196 94.23	53 96.36	179 93.23	387 88.76
Total	365	208	55	192	436

不明＝139

不明＝139

次に文系・理系別と国公立・私立別に、各障害種類ごとの具体的な対応項目の状況を見ていく（表 6-1-4から表 6-1-6）。まず肢体不自由の学生に対する具体的な対応では、文系・理系で最も大きな違いのあるのは「スロープの設置」と「男女別の車椅子用トイレ」（ともに18%程度）で、次いで「手動車椅子」などが続いている。いずれも文系が理系よりも整備状況がよい。また国公立・私立別にみると、「手動車椅子」で私立が国公立を、「スロープの設置」で国公立が私立を、それぞれ10%程度上回っているが、そのほかの項目では整備状況にあまり大きな違いは見受けられない。

表6-1-4 文系・理系別及び国公立・私立別にみた
肢体不自由の学生に対する対応（B）－複数回答－

	文系	理系	その他	国公	私立
手動車椅子	151 35.28	48 19.92	11 18.03	48 20.08	162 32.99
電動車椅子	62 14.49	15 6.22	4 6.56	23 9.62	58 11.81
電動車椅子 アダプター	29 6.78	4 1.66	1 1.64	8 3.35	26 5.30
障害者専用 エレベータ	61 14.25	14 5.81	6 9.84	27 11.30	54 11.00
共用の エレベータ	287 67.06	136 56.43	30 49.18	141 59.00	312 63.54
車椅子用の 公衆電話	42 9.81	5 2.07	1 1.64	8 3.35	40 8.15
スロープの 設置	284 66.36	117 48.55	24 39.34	156 65.27	269 54.79
男女共用車 椅子トイレ	203 47.43	76 31.54	16 26.23	96 40.17	199 40.53
男女別の車 椅子トイレ	144 33.64	39 16.18	13 21.31	62 25.94	134 27.29
学生寮の 改造	15 3.50	6 2.49	2 3.28	6 2.51	17 3.46
駐車スパー スの確保	176 41.12	67 27.80	15 24.59	92 38.49	166 33.81
車椅子用の 座席	81 18.93	27 11.20	5 8.20	38 15.90	75 15.27
ドアの改造	45 10.51	18 7.47	4 6.56	22 9.21	45 9.16
車椅子の入 室スペース	125 29.21	59 24.48	12 19.67	61 25.52	135 27.49
障害学生用 の静養室	35 8.18	12 4.98	0 0.00	7 2.93	40 8.15
その他	16 3.74	6 2.49	2 3.28	5 2.09	19 3.87
施設などの 利用が不可	41 9.58	60 24.90	18 29.51	42 17.57	77 15.68
Total	428	241	61	239	491

視覚障害の学生では肢体不自由の学生と比べて、設備・備品の質問項目数が多く、施設に関わる質問項目は少ない。文系・理系別に見ると、ほとんどの項目で文系が理系よりも整備状況がよく、中でも「点字辞書・点字図書」「点字ブロック」「点字タイプライター」などで、その差が顕著である。国公立・私立別では、「点字辞書・点字図書」や「リーディング室」である程度の差異（9％と5％程度）が見られ、国公立よりも私立の整

表6-1-5 文系・理系別及び国公立・私立別にみた
視覚障害の学生に対する対応（B）－複数回答－

	文系	理系	その他	国公	私立
点字タイプライター	55 14.14	7 3.26	1 1.82	18 8.74	45 9.93
盲人用のワープロ	28 7.20	5 2.33	1 1.82	11 5.34	23 5.08
障害者用のパソコン	32 8.23	4 1.86	0 0.00	13 6.31	23 5.08
オプタコン	12 3.08	1 0.47	0 0.00	6 2.91	7 1.55
自動朗読システム	6 1.54	0 0.00	0 0.00	2 0.97	4 0.88
点字版	29 7.46	7 3.26	1 1.82	7 3.40	30 6.62
点字印刷機	29 7.46	6 2.79	1 1.82	8 3.88	28 6.18
オプチスコープ	25 6.43	5 2.33	2 3.64	10 4.85	22 4.86
点字辞書・点字図書	88 22.62	9 4.19	3 5.45	20 9.71	80 17.66
電子辞書・電子図書	2 0.51	2 0.93	0 0.00	2 0.97	2 0.44
立体コピー	16 4.11	2 0.93	1 1.82	3 1.46	16 3.53
レーズライター	4 1.03	3 1.40	0 0.00	3 1.46	4 0.88
点字ブロック	81 20.82	14 6.51	1 1.82	26 12.62	70 15.45
点字テープの標識	34 8.74	4 1.86	0 0.00	6 2.91	32 7.06
リーディング室	42 10.80	4 1.86	1 1.82	6 2.91	41 9.05
点字掲示板	10 2.57	3 1.40	0 0.00	1 0.49	12 2.65
点字案内板	44 11.31	6 2.79	3 5.45	12 5.83	41 9.05
その他	14 3.60	5 2.33	1 1.82	4 1.94	16 3.53
施設などの利用が不可	256 65.81	185 86.05	47 85.45	153 74.27	335 73.95
Total	389	215	55	206	453

表6-1-6 文系・理系別及び国公立・私立別にみた
聴覚障害の学生に対する対応（B）－複数回答－

	文系	理系	その他	国公	私立
FM補聴器	26 7.12	8 3.85	2 3.64	6 3.12	30 6.88
ループアンテナ	17 4.66	4 1.92	0 0.00	1 0.52	20 4.59
難聴者用の 公衆電話	9 2.47	1 0.48	0 0.00	3 1.56	7 1.61
ヘッドホーン つき机	7 1.92	3 1.44	0 0.00	2 1.04	8 1.83
避難合図信 号機	3 0.82	1 0.48	0 0.00	1 0.52	3 0.69
その他	12 3.29	4 1.92	0 0.00	3 1.56	13 2.98
施設などの 利用が不可	317 86.85	196 94.23	53 96.36	179 93.23	387 88.76
Total	365	208	55	192	436

備状況が進んでいる。その他の項目では、設立主体による対応の違いはあまり見受けられない。

聴覚障害の学生では、視覚障害の学生の場合と同じく、設備・備品での質問項目が多く、しかも項目数が少ない。このため分析結果として、あまり大きな違いは出にくい。こうした中で、「FM 補聴器」の整備状況では理系よりも文系が、また国公立よりも私立が、さらに「ループ・アンテナ」の整備状況では、同じく国公立よりも私立が、ほんの少しだが進んでいるようだ。

6-2 「学生数でみた学部の規模別」及び「学部数でみた大学の規模別」と「障害学生に対する対応（施設・設備・備品）」との関係

表6-2-1 から表6-2-6 は、まず学部には在籍する学生数（学部の規模）や大学に属する学部数（大学の規模）でそれぞれの大学・学部の規模を区分している。そのうえで、学部の規模や当該学部が所属する大学の規模がどのように障害学生の物的な受け入れ体制に影響を及ぼしているかを分析している。

学生数でみた学部の規模で各大学・学部の対応を見ると、肢体不自由の学生、視覚障害の学生、聴覚障害の学生のいずれの場合でも、その規模が大きくなるにつれて、何らかの「施設などの利用の可能性」が少しずつ開かれている。一方、学部数でみた大学の規模では、やはり学部の数が増えるにつれて、そうした大学に所属する学部で、何らか

の「施設などの利用の可能性」が開かれていく。しかし、学部数の最も多い大学に属する学部での「可能性」は必ずしも一番高い数値ではなく、場合によっては減少している（たとえば肢体不自由の場合で、5%程度減少している）。これは学部数が大きくなりすぎると、他学部の具体的な情報（施設・設備・備品面での対応）などが入りにくいという面が出たり、学部の意思決定機構が複雑化して対応が遅れたりするのかもしれない。

表6-2-1 学生数でみた学部の規模別及び学部数でみた大学の規模別の肢体不自由の学生に対する対応（A）

	～999人	～1999人	2000人～	単科	2～3学部	4～6学部	7学部～
施設などの利用が可能	196 76.26	199 86.52	196 87.89	122 73.05	168 84.85	193 91.90	117 85.40
施設などの利用が不可	61 23.74	31 13.48	27 12.11	45 26.95	30 15.15	17 8.10	20 14.60
Total	257	230	223	167	198	210	137

不明=57

不明=55

表6-2-2 学生数でみた学部の規模別及び学部数でみた大学の規模別の視覚障害の学生に対する対応（A）

	～999人	～1999人	2000人～	単科	2～3学部	4～6学部	7学部～
施設などの利用が可能	56 24.03	54 25.35	59 29.95	27 17.09	48 27.27	56 29.63	36 29.75
施設などの利用が不可	177 75.97	159 74.65	138 70.05	131 82.91	128 72.73	133 70.37	85 70.25
Total	233	213	197	158	176	189	121

不明=124

不明=123

表6-2-3 学生数でみた学部の規模別及び学部数でみた大学の規模別の聴覚障害の学生に対する対応（A）

	～999人	～1999人	2000人～	単科	2～3学部	4～6学部	7学部～
施設などの利用が可能	15 6.82	20 9.66	24 12.90	4 2.65	16 9.47	26 14.29	16 14.04
施設などの利用が不可	205 93.18	187 90.34	162 87.10	147 97.35	153 90.53	156 85.71	98 85.96
Total	220	207	186	151	169	182	114

不明=154

不明=151

次に肢体不自由の学生の具体的な対応項目を、学生数でみた学部規模別でみる。ほとんどの項目で学生数が増えるにつれて施設などの整備状況が進んでいる。中でも「男女共用の車椅子トイレ」や「駐車スペースの確保」では、1,000人未満の小規模学部と2,000人以上の大規模学部では16%から18%の開きがある。次に学部数でみた大学の規模で対応状況の違いをみると、一般的には学部数が増えるにつれて対応状況は好転しているが、7学部以上の大規模大学よりも4～6学部の中規模大学の方が整備状況のよいケ

表6-2-4 学生数でみた学部の規模別及び学部数でみた大学の規模別の肢体不自由の学生に対する対応（B）－複数回答－

	～999人	～1999人	2000人～	単科	2～3学部	4～6学部	7学部～
手動車椅子	71 27.63	66 28.70	68 30.49	35 20.96	59 29.80	70 33.33	44 32.12
電動車椅子	28 10.89	25 10.87	25 11.21	5 2.99	17 8.59	43 20.48	14 10.22
電動車椅子 アダプター	9 3.50	16 6.96	9 4.04	3 1.80	10 5.05	16 7.62	4 2.92
障害者専用 エレベータ	25 9.73	28 12.17	28 12.56	12 7.19	13 6.57	40 19.05	15 10.95
共用の エレベータ	151 58.75	144 62.61	146 65.47	84 50.30	122 61.62	146 69.52	93 67.88
車椅子用の 公衆電話	10 3.89	15 6.52	20 8.97	6 3.59	16 8.08	14 6.67	11 8.03
スロープの 設置	138 53.70	136 59.13	135 60.54	73 43.71	113 57.07	143 68.10	90 65.69
男女共用車 椅子トイレ	76 29.57	101 43.91	106 47.53	54 32.34	88 44.44	86 40.95	63 45.99
男女別の車 椅子トイレ	56 21.79	60 26.09	74 33.18	33 19.76	49 24.75	75 35.71	34 24.82
学生寮の 改造	7 2.72	8 3.48	7 3.14	1 0.60	5 2.53	7 3.33	10 7.30
駐車スペー スの確保	67 26.07	90 39.13	94 42.15	50 29.94	64 32.32	89 42.38	51 37.23
車椅子用の 座席	28 10.89	40 17.39	45 20.18	15 8.98	26 13.13	36 17.14	33 24.09
ドアの改善	23 8.95	22 9.57	21 9.42	8 4.79	18 9.09	26 12.38	15 10.95
車椅子の入 室スペース	55 21.40	61 26.52	75 33.63	33 19.76	50 25.25	58 27.62	50 36.50
障害学生用 の静養室	6 2.33	13 5.65	26 11.66	3 1.80	10 5.05	19 9.05	13 9.49
その他	5 1.95	7 3.04	12 5.38	8 4.79	5 2.53	7 3.33	4 2.92
施設などの 利用が不可	61 23.74	31 13.48	27 12.11	45 26.95	30 15.15	17 8.10	20 14.60
Total	257	230	223	167	198	210	137

表6-2-5 学生数でみた学部規模別及び学部数でみた大学の規模別の視覚障害の学生に対する対応（B）－複数回答－

	～999人	～1999人	2000人～	単科	2～3学部	4～6学部	7学部～
点字タイプライター	20 8.58	17 7.98	25 12.69	6 3.80	13 7.39	24 12.70	18 14.88
盲人用のワープロ	9 3.86	12 5.63	13 6.60	6 3.80	6 3.41	15 7.94	5 4.13
障害者用のパソコン	8 3.43	14 6.57	14 7.11	7 4.43	9 5.11	13 6.88	7 5.79
オブタコン	2 0.86	6 2.82	5 2.54	0 0.00	4 2.27	3 1.59	6 4.96
自動朗読システム	1 0.43	2 0.94	3 1.52	3 1.90	2 1.14	0 0.00	1 0.83
点字版	14 6.01	8 3.76	14 7.11	5 3.16	11 6.25	8 4.23	13 10.74
点字印刷機	7 3.00	12 5.63	17 8.63	6 3.80	7 3.98	17 8.99	5 4.13
オブチスコープ	7 3.00	7 3.29	18 9.14	4 2.53	5 2.84	13 6.88	9 7.44
点字辞書・点字図書	22 9.44	33 15.49	43 21.83	14 8.86	21 11.93	40 21.16	22 18.18
電子辞書・電子図書	2 0.86	0 0.00	2 1.02	2 1.27	0 0.00	1 0.53	1 0.83
立体コピー	3 1.29	6 2.82	10 5.08	2 1.27	5 2.84	10 5.29	2 1.65
レーズライター	3 1.29	1 0.47	3 1.52	0 0.00	0 0.00	5 2.65	2 1.65
点字ブロック	27 11.59	30 14.08	37 18.78	13 8.23	27 15.34	30 15.87	25 20.66
点字テープの標識	6 2.58	10 4.69	22 11.17	2 1.27	6 3.41	24 12.70	6 4.96
リーディング室	7 3.00	13 6.10	25 12.69	4 2.53	8 4.55	16 8.47	19 15.70
点字掲示板	5 2.15	3 1.41	5 2.54	1 0.63	7 3.98	5 2.65	0 0.00
点字案内板	15 6.44	15 7.04	23 11.68	5 3.16	20 11.36	21 11.11	7 5.79
その他	6 2.58	7 3.29	7 3.55	4 2.53	5 2.84	9 4.76	2 1.65
施設などの利用が不可	177 75.97	159 74.65	138 70.05	131 82.91	128 72.73	133 70.37	85 70.25
Total	233	213	197	158	176	189	121

表6-2-6 学生数でみた学部規模別及び学部数でみた大学の規模別の聴覚障害の学生に対する対応（B）－複数回答－

	～999人	～1999人	2000人～	単科	2～3学部	4～6学部	7学部～
FM補聴器	9 4.09	10 4.83	14 7.53	0 0.00	9 5.33	14 7.69	13 11.40
ループアンテナ	3 1.36	5 2.42	13 6.99	1 0.66	4 2.37	6 3.30	10 8.77
難聴者用の公衆電話	3 1.36	3 1.45	4 2.15	0 0.00	5 2.96	3 1.65	2 1.75
ヘッドホンつき机	2 0.91	2 0.97	6 3.23	1 0.66	0 0.00	0 0.00	9 7.89
避難合図信号機	2 0.91	1 0.48	1 0.54	0 0.00	2 1.18	1 0.55	1 0.88
その他	3 1.36	8 3.86	5 2.69	2 1.32	5 2.96	8 4.40	1 0.88
施設などの利用が不可	205 93.18	187 90.34	162 87.10	147 97.35	153 90.53	156 85.71	98 85.96
Total	220	207	186	151	169	182	114

ースが多い。たとえば、「電動車椅子」や「男女別の車椅子トイレ」では、中規模大学が大規模大学より10%ほど整備状況が進んでいる。

次に視覚障害の学生でみると、学部の規模でも大学の規模でも、肢体不自由の学生の場合と似たような傾向である。ただし、学部の規模でみた場合の「点字辞書・点字図書」と大学の規模でみた場合の「リーディング室」で、規模が大きくなるにつれてその対応の状況は着実に改善されている。一方、学部の規模でみた聴覚障害の学生では、「FM 補聴器」や「ループ・アンテナ」の項目を除けば、学部の規模による対応に大きな違いはみられない。また大学の規模でみても似たような状況だが、「FM 補聴器」と「ループ・アンテナ」は大学の規模が大きくなるにつれて、ある程度「施設などの利用の可能性」が開けている。

6-3 「地域別」と「障害学生に対する対応（施設・設備・備品）」との関係

表 6-3-1 から表 6-3-6 は、日本全国を9つの地域に区分し、それぞれの地域に属する各大学・学部での障害学生に対する物的な対応を調べたものである。ただし有効回答のあった学部のうち、関東地方と関西地方にかなりの学部が集中しており（全体の54%）、その他の地域、とくに北陸地方や四国地方はそこに区分される学部数が極めて少ない（北陸、四国とも全体の約3%）。

肢体不自由の学生に対する何らかの物的な対応では、関東地方（86%）や関西地方（93%）、母数は少ないが四国地方（90%）で、他の地域と比較して整備状況が比較的進んでいる。とくに関西地方での数値は9割を越えている。しかし他の地域での何らかの対応

も、おおよそ7割を越える学部でその整備がなされている。これに対して視覚障害の学生に対する何らかの物的な対応では、関西地方での4割を越える高い数値（42%）が注目される。また関東地方と母数は少ないが中国地方でも、3割近い学部で視覚障害の学生に対する対応が行われている。聴覚障害の学生に対する対応でも、やはり関西地方は他の地域と比べて、かなり高い数値（25%）を示している。

表6-3-1 地域別にみた肢体不自由の学生に対する対応（A）

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
施設などの 利用が可能	19 70.37	31 68.89	215 86.35	16 80.00	65 75.58	137 92.57	44 81.48	18 90.00	66 81.48
施設などの 利用が不可	8 29.63	14 31.11	34 13.65	4 20.00	21 24.42	11 7.43	10 18.52	2 10.00	15 18.52
Total	27	45	249	20	86	148	54	20	81

不明 = 37

表6-3-2 地域別にみた視覚障害の学生に対する対応（A）

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
施設などの 利用が可能	2 8.70	3 7.14	61 27.23	3 18.75	19 23.17	56 41.79	14 27.45	1 6.25	12 16.90
施設などの 利用が不可	21 91.30	39 92.86	163 72.77	13 81.25	63 76.83	78 58.21	37 72.55	15 93.75	59 83.10
Total	23	42	224	16	82	134	51	16	71

不明 = 108

表6-3-3 地域別にみた聴覚障害の学生に対する対応（A）

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
施設などの 利用が可能	0 0.00	1 2.38	12 5.71	1 7.69	8 10.26	32 24.62	6 12.50	0 0.00	2 3.03
施設などの 利用が不可	25 100.00	41 97.62	198 94.29	12 92.31	70 89.74	98 75.38	42 87.50	16 100.00	64 96.97
Total	25	42	210	13	78	130	48	16	66

不明 = 139

次に3障害種類ごとの具体的な対応をみていくが、やはり地域によっては、母数との関係で明確なことがいえない場合もある。肢体不自由の学生に対する具体的な対応では、関西地方が他の地域に比べて格段の整備状況を示している。とくに「手動車椅子」「男女別の車椅子トイレ」「駐車スペースの確保」「車椅子の入室スペース」で4割を越えてい

るのは関西地方だけである。視覚障害の場合でも似たような状況だが、関西地方の「点字印刷機」や「点字ブロック」の整備状況は、一般的に関西地方に次いで対応状況の進んでいる関東地方の「点字印刷機」や「点字ブロック」の整備状況の2倍以上である。聴覚障害でも関西地方の整備状況のよさが比較的に目立つ。しかし他の地域は関東地方も含めて、聴覚障害の学生に対する対応はほとんど図られていない。

表6-3-4 地域別にみた肢体不自由の学生に対する対応（B）－複数回答－

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
手動車椅子	7 25.93	9 20.00	72 28.92	4 20.00	23 26.74	63 42.57	15 27.78	5 25.00	12 14.81
電動車椅子	0 0.00	4 8.89	26 10.44	4 20.00	5 5.81	28 18.92	9 16.67	3 15.00	2 2.47
電動車椅子 アダプター	0 0.00	1 2.22	5 2.01	1 5.00	4 4.65	16 10.81	3 5.56	1 5.00	3 3.70
障害者専用 エレベータ	1 3.70	3 6.67	23 9.24	6 30.00	7 8.14	29 19.59	6 11.11	1 5.00	5 6.17
共用の エレベータ	16 59.26	26 57.78	152 61.04	11 55.00	53 61.63	106 71.62	32 59.26	16 80.00	41 50.62
車椅子用の 公衆電話	3 11.11	0 0.00	10 4.02	2 10.00	3 3.49	17 11.49	5 9.26	4 20.00	4 4.94
スロープの 設置	13 48.15	19 42.22	134 53.82	11 55.00	44 51.16	112 75.68	31 57.41	13 65.00	48 59.26
男女共用車 椅子トイレ	9 33.33	12 26.67	109 43.78	10 50.00	27 31.40	62 41.89	28 51.85	8 40.00	30 37.04
男女別の車 椅子トイレ	2 7.41	7 15.56	63 25.30	2 10.00	11 12.79	61 41.22	17 31.48	6 30.00	27 33.33
学生寮の 改造	0 0.00	0 0.00	14 5.62	0 0.00	3 3.49	5 3.38	0 0.00	1 5.00	0 0.00
駐車スぺ ースの確保	6 22.22	11 24.44	84 33.73	5 25.00	24 27.91	81 54.73	20 37.04	7 35.00	20 24.69
車椅子用の 座席	2 7.41	4 8.89	14 5.62	2 10.00	6 6.98	43 29.05	12 22.22	3 15.00	27 33.33
ドアの改善	1 3.70	2 4.44	10 4.02	1 5.00	6 6.98	34 22.97	3 5.56	1 5.00	9 11.11
車椅子の入 室スペース	5 18.52	10 22.22	52 20.88	3 15.00	8 9.30	62 41.89	21 38.89	5 25.00	30 37.04
障害学生用 の静養室	1 3.70	1 2.22	6 2.41	1 5.00	2 2.33	31 20.95	3 5.56	0 0.00	2 2.47
その他	0 0.00	0 0.00	13 5.22	0 0.00	0 0.00	10 6.76	0 0.00	0 0.00	1 1.23
施設などの 利用が不可	8 29.63	14 31.11	34 13.65	4 20.00	21 24.42	11 7.43	10 18.52	2 10.00	15 18.52
Total	27	45	249	20	86	148	54	20	81

表6-3-5 地域別にみた視覚障害の学生に対する対応（B）－複数回答－

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
点字タイプライター	1 4.35	1 2.38	26 11.61	0 0.00	2 2.44	25 18.66	2 3.92	0 0.00	6 8.45
盲人用のワープロ	0 0.00	0 0.00	15 6.70	0 0.00	2 2.44	11 8.21	2 3.92	1 6.25	3 4.23
障害者用のパソコン	0 0.00	0 0.00	14 6.25	0 0.00	1 1.22	15 11.19	3 5.88	0 0.00	3 4.23
オプタコン	0 0.00	0 0.00	5 2.23	0 0.00	1 1.22	5 3.73	2 3.92	0 0.00	0 0.00
自動朗読システム	0 0.00	0 0.00	2 0.89	0 0.00	0 0.00	1 0.75	1 1.96	0 0.00	2 2.82
点字版	1 4.35	0 0.00	18 8.04	0 0.00	2 2.44	7 5.22	3 5.88	1 6.25	5 7.04
点字印刷機	0 0.00	0 0.00	11 4.91	0 0.00	0 0.00	20 14.93	0 0.00	1 6.25	4 5.63
オプチスコープ	2 8.70	0 0.00	5 2.23	0 0.00	2 2.44	21 15.67	2 3.92	0 0.00	0 0.00
点字辞書・点字図書	1 4.35	1 2.38	42 18.75	0 0.00	8 9.76	38 28.36	4 7.84	0 0.00	6 8.45
電子辞書・電子図書	0 0.00	0 0.00	2 0.89	0 0.00	1 1.22	1 0.75	0 0.00	0 0.00	0 0.00
立体コピー	0 0.00	0 0.00	14 6.25	0 0.00	0 0.00	4 2.99	1 1.96	0 0.00	0 0.00
レーズライター	0 0.00	0 0.00	5 2.23	0 0.00	1 1.22	1 0.75	0 0.00	0 0.00	0 0.00
点字ブロック	1 4.35	1 2.38	30 13.39	3 18.75	2 2.44	41 30.60	10 19.61	0 0.00	8 11.27
点字テープの標識	1 4.35	0 0.00	15 6.70	0 0.00	2 2.44	18 13.43	1 1.96	0 0.00	1 1.41
リーディング室	0 0.00	0 0.00	24 10.71	0 0.00	1 1.22	22 16.42	0 0.00	0 0.00	0 0.00
点字掲示板	0 0.00	0 0.00	6 2.68	0 0.00	2 2.44	5 3.73	0 0.00	0 0.00	0 0.00
点字案内板	0 0.00	1 2.38	11 4.91	2 12.50	10 12.20	24 17.91	1 1.96	0 0.00	4 5.63
その他	0 0.00	1 2.38	9 4.02	0 0.00	1 1.22	9 6.72	0 0.00	0 0.00	0 0.00
施設などの利用が不可	21 91.30	39 92.86	163 72.77	13 81.25	63 76.83	78 58.21	37 72.55	15 93.75	59 83.10
Total	23	42	224	16	82	134	51	16	71

表6-3-6 地域別にみた聴覚障害の学生に対する対応（B）－複数回答－

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
FM補聴器	0 0.00	0 0.00	1 0.48	1 7.69	2 2.56	25 19.23	5 10.42	0 0.00	2 3.03
ループアンテナ	0 0.00	0 0.00	1 0.48	0 0.00	3 3.85	16 12.31	0 0.00	0 0.00	1 1.52
難聴者用の公衆電話	0 0.00	0 0.00	2 0.95	0 0.00	2 2.56	5 3.85	1 2.08	0 0.00	0 0.00
ヘッドホンつき机	0 0.00	0 0.00	1 0.48	0 0.00	0 0.00	8 6.15	0 0.00	0 0.00	1 1.52
避難合図信号機	0 0.00	0 0.00	1 0.48	0 0.00	2 2.56	1 0.77	0 0.00	0 0.00	0 0.00
その他	0 0.00	1 2.38	6 2.86	0 0.00	5 6.41	4 3.08	0 0.00	0 0.00	0 0.00
施設などの利用が不可	25 100.00	41 97.62	198 94.29	12 92.31	70 89.74	98 75.38	42 87.50	16 100.00	64 96.97
Total	25	42	210	13	78	130	48	16	66

6-4 「共学校・女子大別」及び「宗教系・非宗教系別」と「障害学生に対する対応（施設・設備・備品）」との関係

ここでは、1989年に実施した障害者の高等教育に関する前回の調査で、かなり特徴的な傾向を示した共学校・女子大別と宗教系・非宗教系別に、障害学生に対する対応の実情を検討していく（流通経済大学出版会「障害者の高等教育に関する調査研究」を参照）。なお宗教系の学部というのは、具体的には「仏教的理念に基づいている」学部、「キリスト教的理念に基づいている」学部、「その他の宗教的理念に基づいている」学部の3通りに区分され、それ以外は「宗教的理念とは無関係」の学部である。ただし「その他の宗教的理念に基づいている」学部というのは、母数が極端に少ないため、分析の対象からは外される。

まず共学校・女子大別に何らかの施設・設備・備品の対応状況をみると、肢体不自由の学生、視覚障害の学生、聴覚障害の学生のいずれの場合でも、共学校が女子大を上回っている。たとえば視覚障害の学生に対する対応では、共学校で27%、女子大で20%となっている。次に宗教系の学部（仏教的理念やキリスト教的理念に基づいている学部）と非宗教系の学部（宗教的理念とは無関係の学部）を比べると、いずれの障害でも宗教系の学部の対応が非宗教系の学部の対応をかなり上回っている。すなわち肢体不自由の場合、何らかの施設などの利用の可能性は、仏教的理念の学部でもキリスト教的理念の学部でも、ともに93%で非宗教系の学部を10%ほど上回っている。また視覚障害の学生に対する対応では、仏教的理念の学部で36%、キリスト教的理念の学部

では59%と、大きく非宗教系の学部（21%）を越えている。さらに聴覚障害に対する対応でも、仏教的な理念の学部で27%、キリスト教的な理念の学部で26%と、非宗教系の学部（6%）とは20%ほどの開きがある。ここで、これまで見てきたことから判断して、宗教的な理念に基づく学部の対応は、日本における障害学生に対する物的な対応の面で、かなり先駆的な役割を果たしているといえるだろう。

表6-4-1 共学校・女子校別及び宗教系・非宗教系別にみた
肢体不自由の学生に対する対応（A）

	共学校	女子大	理念とは 無関係	仏教的な 理念	キリスト 教的理念	他の宗教 的な理念
施設などの 利用が可能	542 85.76	56 70.89	448 82.20	37 92.50	68 93.15	6 100.00
施設などの 利用が不可	90 14.24	23 29.11	97 17.80	3 7.50	5 6.85	0 0.00
Total	632	79	545	40	73	6

不明 = 56

不明 = 103

表6-4-2 共学校・女子校別及び宗教系・非宗教系別にみた
視覚障害の学生に対する対応（A）

	共学校	女子大	理念とは 無関係	仏教的な 理念	キリスト 教的理念	他の宗教 的な理念
施設などの 利用が可能	153 26.75	14 19.72	105 21.38	14 35.90	41 58.57	0 0.00
施設などの 利用が不可	419 73.25	57 80.28	386 78.62	25 64.10	29 41.43	6 100.00
Total	572	71	491	39	70	6

不明 = 124

不明 = 161

表6-4-3 共学校・女子校別及び宗教系・非宗教系別にみた
聴覚障害の学生に対する対応（A）

	共学校	女子大	理念とは 無関係	仏教的な 理念	キリスト 教的理念	他の宗教 的な理念
施設などの 利用が可能	59 10.81	3 4.35	30 6.37	10 27.03	17 25.76	0 0.00
施設などの 利用が不可	487 89.19	66 95.65	441 93.63	27 72.97	49 74.24	6 100.00
Total	546	69	471	37	66	6

不明 = 152

不明 = 187

次に共学校・女子大別と宗教系・非宗教系別に、肢体不自由の学生に対する具体的な対応をみていく。共学校・女子大別では、かなりの項目で共学校が女子大の対応を大きく上回っている（たとえば、「共用のエレベーター」や「スロープの設置」など）。女子大が共学校をある程度上回っている対応項目は「男女別の車椅子用トイレ」だが、これは学部の性格を考えると、当然の数値といえるだろう。宗教系・非宗教系別にみると、

表6-4-4 共学校・女子校別及び宗教系・非宗教系別にみた
肢体不自由の学生に対する対応（B）－複数回答－

	共学校	女子大	理念とは 無関係	仏教的な 理念	キリスト 教的理念	他の宗教 的な理念
手動車椅子	189 29.91	18 22.78	126 23.12	28 70.00	37 50.68	5 83.33
電動車椅子	75 11.87	3 3.80	41 7.52	18 45.00	9 12.33	4 66.67
電動車椅子 アダプター	31 4.91	2 2.53	14 2.57	11 27.50	6 8.22	0 0.00
障害者専用 エレベータ	69 10.92	10 12.66	42 7.71	14 35.00	16 21.92	4 66.67
共用の エレベータ	404 63.92	40 50.63	319 58.53	31 77.50	58 79.45	6 100.00
車椅子用の 公衆電話	44 6.96	3 3.80	31 5.69	6 15.00	6 8.22	0 0.00
スロープの 設置	390 61.71	28 35.44	305 55.96	26 65.00	57 78.08	4 66.67
男女共用車 椅子トイレ	276 43.67	15 18.99	224 41.10	11 27.50	33 45.21	0 0.00
男女別の車 椅子トイレ	166 26.27	24 30.38	125 22.94	21 52.50	24 32.88	5 83.33
学生寮の 改造	23 3.64	0 0.00	12 2.20	2 5.00	8 10.96	0 0.00
駐車スパー スの確保	238 37.66	15 18.99	182 33.39	22 55.00	29 39.73	0 0.00
車椅子用の 座席	107 16.93	3 3.80	73 13.39	12 30.00	16 21.92	0 0.00
ドアの改善	62 9.81	5 6.33	40 7.34	9 22.50	12 16.44	0 0.00
車椅子の入 室スペース	178 28.16	13 16.46	125 22.94	17 42.50	33 45.21	0 0.00
障害学生用 の静養室	42 6.65	3 3.80	24 4.40	9 22.50	9 12.33	0 0.00
その他	20 3.16	4 5.06	20 3.67	0 0.00	2 2.74	0 0.00
施設などの 利用が不可	90 14.24	23 29.11	97 17.80	3 7.50	5 6.85	0 0.00
Total	632	79	545	40	73	6

ほとんどの項目で宗教系の整備状況のよさが目立つが、中でも仏教的な理念に基づく学部での「手動車椅子」（70％）と「電動車椅子」（45％）の整備率が、他の学部よりも格

表6-4-5 共学校・女子校別及び宗教系・非宗教系別にみた
視覚障害の学生に対する対応（B）－複数回答－

	共学校	女子大	理念とは 無関係	仏教的な 理念	キリスト 教的理念	他の宗教 的な理念
点字タイプ ライター	58 10.14	3 4.23	32 6.52	4 10.26	24 34.29	0 0.00
盲人用のワ ープロ	29 5.07	3 4.23	18 3.67	2 5.13	9 12.86	0 0.00
障害者用の パソコン	32 5.59	4 5.63	24 4.89	1 2.56	9 12.86	0 0.00
オプタコン	13 2.27	0 0.00	5 1.02	1 2.56	5 7.14	0 0.00
自動朗読ス ステム	6 1.05	0 0.00	5 1.02	0 0.00	0 0.00	0 0.00
点字版	35 6.12	2 2.82	20 4.07	3 7.69	13 18.57	0 0.00
点字印刷機	33 5.77	2 2.82	15 3.05	7 17.95	12 17.14	0 0.00
オブチスコ ープ	30 5.24	1 1.41	16 3.26	10 25.64	4 5.71	0 0.00
点字辞書・ 点字図書	89 15.56	8 11.27	48 9.78	12 30.77	33 47.14	0 0.00
電子辞書・ 電子図書	3 0.52	1 1.41	3 0.61	0 0.00	0 0.00	0 0.00
立体コピー	17 2.97	2 2.82	12 2.44	0 0.00	6 8.57	0 0.00
レーズライ ター	7 1.22	0 0.00	3 0.61	0 0.00	4 5.71	0 0.00
点字ブロッ ク	89 15.56	6 8.45	58 11.81	12 30.77	22 31.43	0 0.00
点字テープ の標識	37 6.47	1 1.41	16 3.26	8 20.51	11 15.71	0 0.00
リーディン グ室	46 8.04	1 1.41	23 4.68	4 10.26	20 28.57	0 0.00
点字掲示板	12 2.10	1 1.41	7 1.43	2 5.13	4 5.71	0 0.00
点字案内板	53 9.27	0 0.00	34 6.92	12 30.77	6 8.57	0 0.00
その他	18 3.15	2 2.82	14 2.85	1 2.56	4 5.71	0 0.00
施設などの 利用が不可	419 73.25	57 80.28	386 78.62	25 64.10	29 41.43	6 100.00
Total	572	71	491	39	70	6

表6-4-6 共学校・女子校別及び宗教系・非宗教系別にみた
聴覚障害の学生に対する対応（B）－複数回答－

	共学校	女子大	理念とは 無関係	仏教的な 理念	キリスト 教的理念	他の宗教 的な理念
FM補聴器	33 6.04	3 4.35	14 2.97	9 24.32	8 12.12	0 0.00
ループアン テナ	21 3.85	0 0.00	6 1.27	10 27.03	3 4.55	0 0.00
難聴者用の 公衆電話	10 1.83	0 0.00	4 0.85	4 10.81	2 3.03	0 0.00
ヘッドホー ンつき机	10 1.83	0 0.00	7 1.49	0 0.00	2 3.03	0 0.00
避難合図信 号機	4 0.73	0 0.00	1 0.21	2 5.41	1 1.52	0 0.00
その他	16 2.93	0 0.00	10 2.12	0 0.00	6 9.09	0 0.00
施設などの 利用が不可	487 89.19	66 95.65	441 93.63	27 72.97	49 74.24	6 100.00
Total	546	69	471	37	66	6

段に高い。

視覚障害の学生の場合では、「点字タイプライター」「点字ブロック」「点字案内板」などで、共学校が女子大よりも進んだ整備状況を示している。また宗教系・非宗教系別では、やはり宗教系の対応が進んでいるが、とくにキリスト教的な理念に基づく学部「点字タイプライター」（34%）や「点字辞書・点字図書」（47%）、仏教的な理念に基づく学部の「オプチスコープ」（26%）や「点字案内板」（31%）は、他の学部の対応を大きく上回っている。

聴覚障害の学生の場合では、共学校・女子大で大きな対応の違いはみられない。宗教系・非宗教系でも、仏教的な理念に基づく学部での対応で、「FM補聴器」「ループ・アンテナ」「難聴者用の公衆電話」が他の学部の対応をかなり上回っているほかは、あまり差異はみられない。

6-5 「創立年度別（大学・学部）」及び「学部の所在地」と「障害学生に対する対応（施設・設備・備品）」との関係

ここでは大学・学部の創立年度別とそれぞれの学部の所在地別（大都市の市街地か郊外かなど）に、障害学生に対する物的な対応の違いをみる。ただしここでは、具体的な項目一つ一つの対応は検討せず、何か一つでも「施設などの利用」が可能かどうかをみていく。

表 6-5-1 から表 6-5-3 までは、大学の創立年度別に対応を調べている。まず肢体不自由の場合、1945年以前に創立された大学での対応（88%）が最も進んでおり、それから緩やかに減少傾向を示しているが、1980年以降は再び上昇傾向を示している。視覚障害の場合でも全く同様の傾向で、1945年以前に創立された大学での対応（33%）が最も高い数値を示し、1970～1979年で最も低い数値を示している。聴覚障害の場合はこれらとは異なる傾向を示し、創立年度の古い大学ほど対応状況がよくなっている。

表6-5-1 大学の創立年度別でみた肢体不自由の学生に対する対応

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
施設などの 利用が可能	199 88.05	179 86.47	107 79.26	40 71.43	40 81.63	27 87.10
施設などの 利用が不可	27 11.95	28 13.53	28 20.74	16 28.57	9 18.37	4 12.90
Total	226	207	135	56	49	31

不明 = 63

表6-5-2 大学の創立年度別でみた視覚障害の学生に対する対応

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
施設などの 利用が可能	67 32.52	52 28.26	23 19.49	5 9.62	11 23.40	8 27.59
施設などの 利用が不可	139 67.48	132 71.74	95 80.51	47 90.38	36 76.60	21 72.41
Total	206	184	118	52	47	29

不明 = 131

表6-5-3 大学の創立年度別でみた聴覚障害の学生に対する対応

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
施設などの 利用が可能	24 12.50	24 13.64	10 8.26	3 5.88	1 2.33	0 0.00
施設などの 利用が不可	168 87.50	152 86.36	111 91.74	48 94.12	42 97.67	25 100.00
Total	192	176	121	51	43	25

不明 = 159

次に学部の新設年度別にみると(表 6-5-4 から表 6-5-6 まで)、肢体不自由と視覚障害の場合には、大学の創立年度の場合と似たような傾向を示している。聴覚障害の場合は、大学の創立年度と比べて多少異なる傾向を示し、ほぼ全ての年代で一様な対応状況を示している。

表6-5-4 学部の新設年度別でみた肢体不自由の学生に対する対応

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
施設などの 利用が可能	69 80.23	175 85.37	147 82.12	63 73.26	92 89.32	56 90.32
施設などの 利用が不可	17 19.77	30 14.63	32 17.88	23 26.74	11 10.68	6 9.68
Total	86	205	179	86	103	62

不明 = 46

表6-5-5 学部の新設年度別でみた視覚障害の学生に対する対応

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
施設などの 利用が可能	24 32.43	55 29.26	36 22.64	15 19.23	26 26.53	13 23.64
施設などの 利用が不可	50 67.57	133 70.74	123 77.36	63 80.77	72 73.47	42 76.36
Total	74	188	159	78	98	55

不明 = 115

表6-5-6 学部の新設年度別でみた聴覚障害の学生に対する対応

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
施設などの 利用が可能	8 11.59	16 9.25	21 13.13	7 9.09	7 7.61	1 2.00
施設などの 利用が不可	61 88.41	157 90.75	139 86.87	70 90.91	85 92.39	49 98.00
Total	69	173	160	77	92	50

不明 = 146

さらに学部所在地別に施設・設備・備品での対応をみると（表 6-5-7 から表 6-5-9 まで）、肢体不自由では学部の所在地による違いはあまり見受けられない。視覚障害の学生の場合では、大都市の市街地や郊外にある学部での対応が進んでおり、中小都市の市街地にある学部での対応の約 2 倍である。また聴覚障害では、中小都市の郊外にある学部での対応が少し低い、肢体不自由の場合と同様に、あまり大きな対応の違いは見られない。

表6-5-7 学部の所在地でみた肢体不自由の学生に対する対応

	大都市の 市街地	大都市の 郊外	中小都市 の市街地	中小都市 の郊外	その他
施設などの 利用が可能	176 85.02	156 89.14	112 80.00	148 79.14	14 87.50
施設などの 利用が不可	31 14.98	19 10.86	28 20.00	39 20.86	2 12.50
Total	207	175	140	187	16

不明 = 42

表6-5-8 学部の所在地でみた視覚障害の学生に対する対応

	大都市の 市街地	大都市の 郊外	中小都市 の市街地	中小都市 の郊外	その他
施設などの 利用が可能	58 31.69	46 29.87	20 15.63	41 23.56	5 31.25
施設などの 利用が不可	125 68.31	108 70.13	108 84.37	133 76.44	11 68.75
Total	183	154	128	174	16

不明 = 112

表6-5-9 学部の所在地でみた聴覚障害の学生に対する対応

	大都市の 市街地	大都市の 郊外	中小都市 の市街地	中小都市 の郊外	その他
施設などの 利用が可能	20 11.63	17 11.49	12 9.76	10 6.02	3 20.00
施設などの 利用が不可	152 88.37	131 88.51	111 90.24	156 93.98	12 80.00
Total	172	148	123	166	15

不明 = 143

6-6 「障害学生の在籍の有無（重度・軽度）」と「障害学生に対する対応（施設・設備・備品）」との関係

ここではまず、障害学生全体（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害を含む全て）を軽度の障害学生と重度の障害学生に区分し、障害の程度とその在籍の有無による対応の違いを探っている。つまり、障害の種類が何であれ、軽度の障害学生と重度の障害学生の在籍の有無が各障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚障害）むけの施設・設備・備品の整備状況に如何に影響を及ぼすかを見ている。表中の「在籍あり・あった」というのは、これまで学部には障害学生が在籍していた、また現在在籍しているケースであり、「在籍なし」というのは、障害者が過去も現在も在籍していないケースである。

障害の種類を問わず、軽度の障害学生の在籍経験がある場合、肢体不自由に関わる何らかの「施設などの利用の可能性」は88%、「在籍なし」の場合は83%で、両者の間にあまり大きな違いは見られない。ところが、重度の障害学生の在籍経験がある場合には「施設などの利用の可能性」は92%、「在籍なし」の場合は74%で、ここには20%近い開きがある。視覚障害に関わる対応項目でも、軽度の「在籍経験あり」と「在籍なし」の差は約10%ほどだが、重度では「在籍経験あり」と「在籍なし」の差は23%とかなり大きく

表6-6-1 3障害種類合計の軽度・重度別にみた
肢体不自由の学生に対する対応

	(軽度障害者)		(重度障害者)	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
施設などの 利用が可能	344 87.98	134 83.23	291 91.51	198 74.44
施設などの 利用が不可	47 12.02	27 16.77	27 8.49	68 25.56
Total	391	161	318	266

不明 = 214

不明 = 183

表6-6-2 3障害種類合計の軽度・重度別にみた
視覚障害の学生に対する対応

	(軽度障害者)		(重度障害者)	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
施設などの 利用が可能	108 30.42	31 20.67	109 38.93	39 15.54
施設などの 利用が不可	247 69.58	119 79.33	171 61.07	212 84.46
Total	355	150	280	251

不明 = 262

不明 = 236

表6-6-3 3 障害種類合計の軽度・重度別にみた
聴覚障害の学生に対する対応

	(軽度障害者)		(重度障害者)	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
施設などの 利用が可能	42 12.28	11 7.64	41 15.83	9 3.70
施設などの 利用が不可	300 87.72	133 92.36	218 84.17	234 96.30
Total	342	144	259	243

不明 = 281

不明 = 265

開いている。聴覚障害に関わる対応項目でもやはり事情は同じで、数値は下がるが在籍の有無による差異は、軽度より重度の方が大きい。

次に障害学生を障害の種類別（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害別）に軽度と重度とに分け、それぞれの在籍と対応する障害学生むけの施設・設備・備品の整備状況の関係をみる。軽度の肢体不自由学生の場合、「在籍経験あり」の学部 of 何らかの「施設などの利用の可能性」は92%、「在籍なし」の学部 of 「可能性」は77%である。また重度の肢体不自由学生の場合、同様に「在籍経験あり」の学部では94%、「在籍なし」の学部では74%である。在籍経験の有無による違いは、軽度で約15%、重度で約20%程度である。いずれの場合でも、在籍経験のある学部での対応がやはり進んでいる。

次に軽度の視覚障害の場合、「在籍経験あり」の学部 of 「施設などの利用の可能性」は43%で、「在籍なし」の学部は19%である。また重度の場合、「在籍経験あり」の学部 of 「施設などの利用の可能性」は90%、「在籍なし」の学部 of それは14%で、ここには圧倒的な違いがある。聴覚障害の場合でも、他の障害と比べて数値の差はそれほどないが、事情はよく似ている。つまり軽度・重度ともに、在籍経験の有無による違いが「施設などの利用の可能性」に反映している。

表6-6-4 肢体不自由の学生の在籍の有無と対応
—軽度・重度別— (A)

	(軽度障害者)		(重度障害者)	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
施設などの 利用が可能	220 92.05	222 76.55	245 93.87	250 74.40
施設などの 利用が不可	19 7.95	68 23.45	16 6.13	86 25.60
Total	239	290	261	336

不明 = 236

不明 = 167

表6-6-5 視覚障害の学生の在籍の有無と対応
－軽度・重度別－（A）

	（軽度障害者）		（重度障害者）	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
施設などの 利用が可能	66 43.42	49 18.70	71 89.87	68 14.23
施設などの 利用が不可	86 56.58	213 81.30	8 10.13	410 85.77
Total	152	262	79	478

不明 = 351

不明 = 209

表6-6-6 聴覚障害の学生の在籍の有無と対応
－軽度・重度別－（A）

	（軽度障害者）		（重度障害者）	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
施設などの 利用が可能	31 13.96	17 8.10	11 19.64	31 7.36
施設などの 利用が不可	191 86.04	193 91.90	45 80.36	390 92.64
Total	222	210	56	421

不明 = 335

不明 = 290

最後に3障害種類ごとの具体的な対応状況をみていく。まず肢体不自由の学生に対する対応の場合、軽度障害者の「在籍経験あり」の学部でも、重度障害者の「在籍経験あり」の学部でも、やはり在籍経験のある学部の対応が在籍経験のない学部の対応を大きく上回っている。とくに重度の場合、「スロープの設置」状況は、在籍経験のある学部と在籍経験のない学部で、その違いは34%にも上っている。このほか「駐車スペースの確保」や「車椅子の入室スペース」などでも、その差は30%近くになっている。視覚障害の場合では、肢体不自由の場合と同様に、在籍経験の有無でかなりの対応の違いを見せているが、ここでの在籍経験の有無による違いは、項目によっては驚くほどである。たとえば「点字辞書・点字図書」の項目では、在籍経験の有無によって、軽度障害学生の場合で23%、重度障害学生の場合では実に67%もの対応の開きがある。また「点字ブロック」の項目では、在籍経験の有無によって、軽度障害学生の場合で20%、重度障害学生の場合では約50%もの対応の開きがある。聴覚障害の場合では「避難合図信号機」など、ほとんど対応の違いが出てこない項目があるが、残りの項目では軽度・重度ともに、ある程度の対応の違いが見受けられる。とくに重度障害学生の場合で、在籍経験の有無

により、「FM 補聴器」や「ループ・アンテナ」では10%ほど対応に差が出ている。やはりここでも、「在籍経験あり」の学部で整備状況が進んでいる。いずれにせよ軽度・重度を問わず、障害学生の在籍の有無は、各学部での障害学生に対する物的な対応に、かなり大きな影響を及ぼしている。

表6-6-7 肢体不自由の学生の在籍の有無と対応
—軽度・重度別— (B)—複数回答—

	(軽度障害者)		(重度障害者)	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
手動車椅子	95 38.46	68 22.90	115 43.23	71 20.40
電動車椅子	36 14.57	26 8.75	46 17.29	25 7.18
電動車椅子 アダプター	17 6.88	11 3.70	19 7.14	10 2.87
障害者専用 エレベータ	35 14.17	23 7.74	37 13.91	27 7.76
共用の エレベータ	167 67.61	161 54.21	196 73.68	186 53.45
車椅子用の 公衆電話	26 10.53	11 3.70	26 9.77	15 4.31
スロープの 設置	165 66.80	146 49.16	205 77.07	152 43.68
男女共用車 椅子トイレ	118 47.77	102 34.34	143 53.76	107 30.75
男女別の車 椅子トイレ	88 35.63	56 18.86	103 38.72	65 18.68
学生寮の 改造	17 6.88	3 1.01	22 8.27	1 0.29
駐車スパー スの確保	109 44.13	76 25.59	135 50.75	81 23.28
車椅子用の 座席	46 18.62	28 9.43	70 26.32	18 5.17
ドアの改善	26 10.53	24 8.08	31 11.65	26 7.47
車椅子の入 室スペース	86 34.82	48 16.16	111 41.73	47 13.51
障害学生用 の静養室	24 9.72	15 5.05	35 13.16	8 2.30
その他	7 2.83	12 4.04	11 4.14	10 2.87
施設などの 利用が不可	19 7.69	68 22.90	16 6.02	86 24.71
Total	247	297	266	348

表6-6-8 視覚障害の学生の在籍の有無と対応
 -軽度・重度別- (B)-複数回答-

	(軽度障害者)		(重度障害者)	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
点字タイプ ライター	34 22.37	14 5.24	40 48.78	17 3.53
盲人用のワ ープロ	13 8.55	11 4.12	23 28.05	8 1.66
障害者用の パソコン	19 12.50	9 3.37	21 25.61	12 2.49
オプタコン	4 2.63	5 1.87	9 10.98	4 0.83
自動朗読ス ステム	5 3.29	1 0.37	4 4.88	2 0.41
点字版	21 13.82	9 3.37	23 28.05	10 2.07
点字印刷機	24 15.79	9 3.37	27 32.93	7 1.45
オプチスコ ープ	21 13.82	7 2.62	14 17.07	13 2.70
点字辞書・ 点字図書	48 31.58	24 8.99	60 73.17	28 5.81
電子辞書・ 電子図書	2 1.32	2 0.75	3 3.66	1 0.21
立体コピー	9 5.92	4 1.50	14 17.07	5 1.04
レーズライ ター	4 2.63	3 1.12	5 6.10	2 0.41
点字ブロッ ク	42 27.63	24 8.99	46 56.10	34 7.05
点字テープ の標識	18 11.84	9 3.37	22 26.83	13 2.70
リーディン グ室	27 17.76	10 3.75	31 37.80	11 2.28
点字掲示板	9 5.92	3 1.12	10 12.20	2 0.41
点字案内板	22 14.47	18 6.74	17 20.73	26 5.39
その他	6 3.95	7 2.62	4 4.88	14 2.90
施設などの 利用が不可	86 56.58	213 81.30	8 10.13	410 85.77
Total	152	262	79	478

表6-6-9 聴覚障害の学生の在籍の有無と対応
—軽度・重度別— (B)—複数回答—

	(軽度障害者)		(重度障害者)	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
FM補聴器	22 9.87	10 4.76	8 14.04	17 4.04
ループアンテナ	12 5.38	6 2.86	7 12.28	8 1.90
難聴者用の 公衆電話	5 2.24	2 0.95	4 7.02	3 0.71
ヘッドホー ンつき机	7 3.14	3 1.43	2 3.51	5 1.19
避難合図信 号機	2 0.90	1 0.48	2 3.51	2 0.48
その他	6 2.69	5 2.38	3 5.26	8 1.90
施設などの 利用が不可	191 86.04	193 91.90	45 80.36	390 92.64
Total	222	210	56	421

7. 「学部属性」と「障害学生への配慮」との関係

この章では、「貴学部の障害学生に対して、次のような配慮を行っていますか。また、過去に行ったことがありますか。」という質問に対する回答について分析する。

質問の中での配慮は、全般的な配慮（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害の3つの障害に共通のもの）、肢体不自由の学生への配慮、視覚障害の学生への配慮、聴覚障害の学生への配慮の4つに分かれている。

7-1から7-7までは、障害を持つ学生に対しての配慮が何か1つでもされているかどうか（「何らかの配慮を行っている」あるいは「何も配慮は行っていない」）を、7-8から7-12までは配慮の個々の項目（その項目の配慮を「行っている」か「行っていない」）を分析している。

7-1 障害学生に対する配慮—文系・理系別：国公立・私立別—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮が何か1つでもされているかどうかと、学部の属性としての「文系・理系」「国公立・私立」との関係を見てゆく。

まず、文系と理系の比較では、「何らかの配慮を行っている」との回答が、全般的な配慮、肢体不自由への配慮、視覚障害への配慮、聴覚障害への配慮の4ついずれも、文系の方が高い比率である。次に、国公立と私立の比較では、全般的な配慮では「配慮を行っている」が国公立と私立がほぼ同じであるが、他の3つの種類の配慮では私立の方が10%近く高くなっている。

表7-1-1 文系・理系別および国公立・私立別にみた障害学生への何らかの配慮の有無

全般的な配慮(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの)

	文系	理系	その他	国公立	私立
行っている	244 63.54	91 44.61	22 39.29	105 54.40	252 55.88
何も行っていない	140 36.46	113 55.39	34 60.71	88 45.60	199 44.12
回答学部数	384	204	56	193	451

不明=123

不明=123

表7-1-2 文系・理系別および国公立・私立別にみた肢体不自由学生への何らかの配慮の有無

	文系	理系	その他	国公立	私立
行っている	123 33.88	36 18.09	8 15.38	40 21.62	127 29.60
何も行っていない	240 66.12	163 81.91	44 84.62	145 78.38	302 70.40
回答学部数	363	199	52	185	429

不明=153

不明=153

表7-1-3 文系・理系別および国公立・私立別にみた視覚障害学生への何らかの配慮の有無

	文系	理系	その他	国公立	私立
行っている	153 41.24	39 19.50	13 25.00	49 26.63	156 35.54
何も行っていない	218 58.76	161 80.50	39 75.00	135 73.37	283 64.46
回答学部数	371	200	52	184	439

不明=144

不明=144

表7-1-4 文系・理系別および国公立・私立別にみた聴覚障害学生への何らかの配慮の有無

	文系	理系	その他	国公立	私立
行っている	119 33.33	39 19.90	12 22.64	41 22.78	129 30.28
何も行っていない	238 66.67	157 80.10	41 77.36	139 77.22	297 69.72
回答学部数	357	196	53	180	426

不明=161

不明=161

7-2 障害学生に対する配慮—学部規模別・大学規模別—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮が何か1つでもされているかどうかと、学部の属性としての「学生数でみた学部の規模」「学部数でみた大学の規模」との関係を見てゆく。

まず、「学生数でみた学部の規模」での比較では、学部の学生数1000人未満の小規模学部よりもそれ以上の学生数の学部の方が「何らかの配慮を行っている」との回答がいずれの障害への配慮においても高い比率を示している。学生数1000人台の学部と2000人以上の学部の間ではほとんど差は見られない。次に、「学部数でみた大学の規模」では、いずれの障害への配慮においても最も小さな規模（単科）の大学での「配慮を行っている」との回答の比率が一番低い。全般的な配慮および肢体不自由への配慮では、単科から4-6学部へと配慮率が上昇するが7学部以上で配慮率が低下する。視覚障害への配慮では、単科に比べ2-3学部4-6学部で配慮率が同程度に高まり、さらに7学部以上で配慮率が再度上昇する。聴覚障害への配慮では2-3学部以降配慮率は頭打ちとなる。

表7-2-1 学部の学生数別および大学の学部数別にみた障害学生への何らかの配慮の有無
全般的な配慮(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの)

	～999人	～1999人	2000人～	単科	2～3学部	4～6学部	7学部～
行っている	77 35.65	134 65.05	135 65.22	74 47.74	90 52.94	119 63.30	67 56.30
何も行っていない	139 64.35	72 34.95	72 34.78	81 52.26	80 47.06	69 36.70	52 43.70
回答学部数	216	206	207	155	170	188	119

不明=138

不明=135

表7-2-2 学部の学生数別および大学の学部数別にみた肢体不自由学生への何らかの配慮の有無

	～999人	～1999人	2000人～	単科	2～3学部	4～6学部	7学部～
行っている	33 15.71	69 35.20	61 31.44	23 15.54	54 32.34	59 33.33	26 23.85
何も行っていない	177 84.29	127 64.80	133 68.56	125 84.46	113 67.66	118 66.67	83 76.15
回答学部数	210	196	194	148	167	177	109

不明＝167

不明＝166

表7-2-3 学部の学生数別および大学の学部数別にみた視覚障害学生への何らかの配慮の有無

	～999人	～1999人	2000人～	単科	2～3学部	4～6学部	7学部～
行っている	49 22.79	78 39.39	73 37.44	37 24.67	56 33.33	61 33.70	45 40.91
何も行っていない	166 77.21	120 60.61	122 62.56	113 75.33	112 66.67	120 66.30	65 59.09
回答学部数	215	198	195	150	168	181	110

不明＝159

不明＝158

表7-2-4 学部の学生数別および大学の学部数別にみた聴覚障害学生への何らかの配慮の有無

	～999人	～1999人	2000人～	単科	2～3学部	4～6学部	7学部～
行っている	36 17.31	61 31.44	67 35.26	31 21.09	47 28.66	51 29.48	37 33.64
何も行っていない	172 82.69	133 68.56	123 64.74	116 78.91	117 71.34	122 70.52	73 66.36
回答学部数	208	194	190	147	164	173	110

不明＝175

不明＝173

7-3 障害学生に対する配慮—地域別—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮が何か1つでもされているかどうかと、「学部の所在地」との関係を見てゆく。

全般的な配慮、視覚障害への配慮、聴覚障害への配慮では、関西地域が他の地域に比較して「何らかの配慮をしている」率が高いことがわかる。肢体不自由への配慮では、関西・中国・四国の西日本地域が同じく高い比率を示している。

表7-3-1 地域別にみた障害学生への何らかの配慮の有無

全般的な配慮(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの)

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
行っている	7 30.43	20 51.28	132 58.93	9 69.23	27 36.00	104 75.91	24 51.06	7 41.18	27 39.13
何も行っていない	16 69.57	19 48.72	92 41.07	4 30.77	48 64.00	33 24.09	23 48.94	10 58.82	42 60.87
回答学部数	23	39	224	13	75	137	47	17	69

不明=123

表7-3-2 学部の所在地－A別にみた肢体不自由学生への何らかの配慮の有無

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
行っている	4 16.00	8 20.00	52 25.24	2 14.29	15 20.83	45 35.43	15 32.61	8 47.06	18 26.87
何も行っていない	21 84.00	32 80.00	154 74.76	12 85.71	57 79.17	82 64.57	31 67.39	9 52.94	49 73.13
回答学部数	25	40	206	14	72	127	46	17	67

不明=153

表7-3-3 学部の所在地－A別にみた視覚障害学生への何らかの配慮の有無

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
行っている	4 15.38	7 17.95	69 32.55	2 15.38	17 23.61	69 52.27	14 31.11	5 29.41	18 26.87
何も行っていない	22 84.62	32 82.05	143 67.45	11 84.62	55 76.39	63 47.73	31 68.89	12 70.59	49 73.13
回答学部数	26	39	212	13	72	132	45	17	67

不明=144

表7-3-4 学部の所在地－A別にみた聴覚障害学生への何らかの配慮の有無

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
行っている	4 15.38	6 16.67	62 30.10	4 30.77	13 17.57	61 49.19	9 21.43	3 17.65	8 11.76
何も行っていない	22 84.62	30 83.33	144 69.90	9 69.23	61 82.43	63 50.81	33 78.57	14 82.35	60 88.24
回答学部数	26	36	206	13	74	124	42	17	68

不明=161

7-4 障害学生に対する配慮—共学・女子のみ別：非宗教系・宗教系別—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮が何か1つでもされているかどうかと、学部
の属性としての「共学・女子のみ」「非宗教系・宗教系」との関係について見てゆく。

まず、「共学か女子のみか」を見てみると、「何らかの配慮を行っている」のは、全般的な配慮と視覚障害への配慮ではほぼ同じ、肢体不自由への配慮では女子のみの方が低く、聴覚障害への配慮では逆に女子のみの方が高くなっている。また、非宗教系と宗教系の比較では、全体として宗教系の方が非宗教系の学部（大学）よりも「配慮を行っている」比率が高くなっている。さらに、宗教系の中でもキリスト教系の方が仏教系よりも高い比率を示している。

表7-4-1 共学・女子別および非宗教系・宗教系別にみた障害学生への何らかの配慮の有無
全般的な配慮(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの)

	共学校	女子大	宗教とは 無関係	仏教	キリスト教	その他の 宗教
行っている	312 55.71	38 54.29	248 51.67	22 56.41	58 87.88	1 16.67
何も行っていない	248 44.29	32 45.71	232 48.33	17 43.59	8 12.12	5 83.33
回答学部数	560	70	480	39	66	6

不明 = 137

不明 = 176

表7-4-2 共学・女子別および非宗教系・宗教系別にみた肢体不自由学生への
何らかの配慮の有無

	共学校	女子大	宗教とは 無関係	仏教	キリスト教	その他の 宗教
行っている	152 28.46	10 15.38	108 23.63	15 39.47	28 43.75	1 16.67
何も行っていない	382 71.54	55 84.62	349 76.37	23 60.53	36 56.25	5 83.33
回答学部数	534	65	457	38	64	6

不明 = 168

不明 = 202

表7-4-3 共学・女子別および非宗教系・宗教系別にみた視覚障害学生への何らかの配慮の有無

	共学校	女子大	宗教とは無関係	仏教	キリスト教	その他の宗教
行っている	175 32.47	24 35.29	129 28.04	15 39.47	44 64.71	0 0.00
何も行っていない	364 67.53	44 64.71	331 71.96	23 60.53	24 35.29	6 100.00
回答学部数	539	68	460	38	68	6

不明 = 160

不明 = 195

表7-4-4 共学・女子別および非宗教系・宗教系別にみた聴覚障害学生への何らかの配慮の有無

	共学校	女子大	宗教とは無関係	仏教	キリスト教	その他の宗教
行っている	142 27.00	23 34.85	108 23.89	13 34.21	31 50.00	0 0.00
何も行っていない	384 73.00	43 65.15	344 76.11	25 65.79	31 50.00	6 100.00
回答学部数	526	66	452	38	62	6

不明 = 175

不明 = 209

7-5 障害学生に対する配慮—大学創立年度別：学部創立年度別—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮が何か1つでもされているかどうかと、学部の属性としての「大学の創立年度」「学部の創立年度」との関係を見てゆく。

まず、大学の創立年度別で見ると、全般的な配慮では創立年度が古いほど「何らかの配慮がされている」比率が高い。肢体不自由への配慮、視覚障害への配慮、聴覚障害への配慮ではそのようなはっきりした傾向は見られないが、創立が1970年代と1990年代の大学で他の年代と比べ「配慮を行っている」比率が低くなっている。次に、学部の創立年度別で見ると、いずれの配慮においても、創立が1990年代の学部で他の年代の学部より「配慮を行っている」比率が低くなっている。さらに、全般的な配慮、視覚障害への配慮、聴覚障害への配慮では1970年代創立の学部においても配慮率が低くなっている。

表7-5-1 大学の創立年度別にみた障害学生への何らかの配慮の有無
全般的な配慮（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの）

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
行っている	138 65.71	97 56.73	68 55.74	24 48.00	17 37.78	4 16.00
何も行っていない	72 34.29	74 43.27	54 44.26	26 52.00	28 62.22	21 84.00
回答学部数	210	171	122	50	45	25

不明 = 144

表7-5-2 大学の創立年度別にみた肢体不自由学生への何らかの配慮の有無

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
行っている	64 33.51	36 21.95	39 32.23	7 15.22	10 22.22	4 15.38
何も行っていない	127 66.49	128 78.05	82 67.77	39 84.78	35 77.78	22 84.62
回答学部数	191	164	121	46	45	26

不明 = 174

表7-5-3 大学の創立年度別にみた視覚障害学生への何らかの配慮の有無

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
行っている	90 45.00	49 30.06	33 27.50	5 10.64	15 33.33	4 15.38
何も行っていない	110 55.00	114 69.94	87 72.50	42 89.36	30 66.67	22 84.62
回答学部数	200	163	120	47	45	26

不明 = 166

表7-5-4 大学の創立年度別にみた聴覚障害学生への何らかの配慮の有無

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
行っている	67 34.90	33 20.75	36 30.25	7 15.22	14 32.56	5 19.23
何も行っていない	125 65.10	126 79.25	83 69.75	39 84.78	29 67.44	21 80.77
回答学部数	192	159	119	46	43	26

不明 = 182

表7-5-5 学部の新設年度別にみた障害学生への何らかの配慮の有無
全般的な配慮(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの)

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
行っている	52 65.82	105 59.32	97 59.88	37 49.33	50 54.95	12 22.64
何も行っていない	27 34.18	72 40.68	65 40.12	38 50.67	41 45.05	41 77.36
回答学部数	79	177	162	75	91	53

不明 = 130

表7-5-6 学部の新設年度別にみた肢体不自由学生への何らかの配慮の有無

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
行っている	19 27.14	38 22.49	54 33.96	17 23.61	31 35.23	7 14.00
何も行っていない	51 72.86	131 77.51	105 66.04	55 76.39	57 64.77	43 86.00
回答学部数	70	169	159	72	88	50

不明 = 159

表7-5-7 学部の新設年度別にみた視覚障害学生への何らかの配慮の有無

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
行っている	33 45.83	61 34.66	54 34.39	15 20.55	30 34.09	10 19.61
何も行っていない	39 54.17	115 65.34	103 65.61	58 79.45	58 65.91	41 80.39
回答学部数	72	176	157	73	88	51

不明 = 150

表7-5-8 学部の新設年度別にみた聴覚障害学生への何らかの配慮の有無

	～1945	1946 ～1959	1960 ～1969	1970 ～1979	1980 ～1989	1990 ～
行っている	27 39.71	41 24.55	48 30.97	12 16.44	31 36.05	8 16.00
何も行っていない	41 60.29	126 75.45	107 69.03	61 83.56	55 63.95	42 84.00
回答学部数	68	167	155	73	86	50

不明 = 168

7-6 障害学生に対する配慮—学部—の所在地別—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮が何か1つでもされているかどうかと、学部の属性としての、大都市にあるか中小都市にあるか・市街地か郊外かなどの「学部の所在地」との関係を見てゆく。

肢体不自由への配慮においては所在地による差がほとんど見られないが、全般的な配慮、視覚障害への配慮、聴覚障害への配慮では大都市市街地・郊外にある学部での「配慮を行っている」割合が大きいことがわかる。

表7-6-1 学部の所在地—B別にみた障害学生への何らかの配慮の有無
全般的な配慮(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの)

	大都市 市街地	大都市 郊外	中小都市 市街地	中小都市 郊外	その他
行っている	113 62.09	95 60.51	54 45.38	81 48.21	11 78.57
何も行っていない	69 37.91	62 39.49	65 54.62	87 51.79	3 21.43
回答学部数	182	157	119	168	14

不明 = 127

表7-6-2 学部の所在地
—B別にみた肢体不自由学生への何らかの配慮の有無

	大都市 市街地	大都市 郊外	中小都市 市街地	中小都市 郊外	その他
行っている	43 25.44	45 29.61	31 27.93	39 23.78	9 64.29
何も行っていない	126 74.56	107 70.39	80 72.07	125 76.22	5 35.71
回答学部数	169	152	111	164	14

不明 = 157

表7-6-3 学部の所在地
—B別にみた視覚障害学生への何らかの配慮の有無

	大都市 市街地	大都市 郊外	中小都市 市街地	中小都市 郊外	その他
行っている	76 42.46	52 33.99	25 22.52	41 25.31	10 71.43
何も行っていない	103 57.54	101 66.01	86 77.48	121 74.69	4 28.57
回答学部数	179	153	111	162	14

不明 = 148

表7-6-4 学部所在地
— B別にみた聴覚障害学生への何らかの配慮の有無

	大都市 市街地	大都市 郊外	中小都市 市街地	中小都市 郊外	その他
行っている	54 31.95	50 33.78	26 24.07	37 22.70	2 14.29
何も行っていない	115 68.05	98 66.22	82 75.93	126 77.30	12 85.71
回答学部数	169	148	108	163	14

不明 = 165

7-7 障害学生に対する配慮—障害学生の在籍（障害種類別・軽重度別）—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮が何か1つでもされているかどうかと、「何らかの障害（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害）を持つ学生の在籍（現在過去を含めて）」との関係を見る。

全般的な配慮、肢体不自由への配慮、視覚障害への配慮、聴覚障害への配慮、いずれの障害への配慮においても、重度の障害を持つ学生が在籍している（いた）場合、軽度の障害を持つ学生の在籍の場合よりも配慮を行っている割合が高い。

表7-7-1 障害学生への何らかの配慮の有無と障害学生在籍の有無
全般的な配慮(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの)
3障害(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害)合わせて

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
行っている	245 65.86	51 39.84	222 74.50	83 37.05
何も行っていない	127 34.14	77 60.16	76 25.50	141 62.95
回答学部数	372	128	298	224

不明 = 267

不明 = 245

表7-7-2 肢体不自由学生への何らかの配慮の有無と障害学生在籍の有無
3 障害（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害）合わせて

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
行っている	120 33.80	20 16.39	110 38.19	26 12.44
何も行っていない	235 66.20	102 83.61	178 61.81	183 87.56
回答学部数	355	122	288	209

不明 = 290

不明 = 270

表7-7-3 視覚障害学生への何らかの配慮の有無と障害学生在籍の有無
3 障害（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害）合わせて

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
行っている	149 41.50	26 20.63	135 46.55	38 17.67
何も行っていない	210 58.50	100 79.37	155 53.45	177 82.33
回答学部数	359	126	290	215

不明 = 282

不明 = 262

表7-7-4 聴覚障害学生への何らかの配慮の有無と障害学生在籍の有無
3 障害（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害）合わせて

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
行っている	131 37.64	19 15.45	112 40.29	33 15.49
何も行っていない	217 62.36	104 84.55	166 59.71	180 84.51
回答学部数	348	123	278	213

不明 = 296

不明 = 276

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮が何か1つでもされているかどうかと、「肢体不自由の学生の在籍（現在過去を含めて）」との関係を見てゆく。

全般的な配慮において、重度の障害を持つ学生が在籍している（いた）場合の方が、

軽度の障害を持つ学生の在籍の場合よりも配慮を行っている割合がやや高い傾向が見られる。他の肢体不自由・視覚障害・聴覚障害への配慮では、在籍学生の障害軽度・重度による配慮の差はほとんど見られない。

表7-7-5 肢体不自由学生の有無 軽度・重度別にみた障害学生への何らかの配慮の有無

一般的な配慮(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの)

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり・あった	在籍なし	在籍あり・あった	在籍なし
行っている	164 70.09	104 41.27	186 74.70	123 41.14
何も行っていない	70 29.91	148 58.73	63 25.30	176 58.86
回答学部数	234	252	249	299

不明 = 281

不明 = 219

表7-7-6 肢体不自由学生の有無 軽度・重度別にみた肢体不自由学生への何らかの配慮の有無

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり・あった	在籍なし	在籍あり・あった	在籍なし
行っている	82 36.12	40 17.02	92 37.40	56 20.00
何も行っていない	145 63.88	195 82.98	154 62.60	224 80.00
回答学部数	227	235	246	280

不明 = 305

不明 = 241

表7-7-7 肢体不自由学生の有無 軽度・重度別にみた視覚障害学生への何らかの配慮の有無

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり・あった	在籍なし	在籍あり・あった	在籍なし
行っている	96 41.74	55 22.73	101 41.74	74 25.52
何も行っていない	134 58.26	187 77.27	141 58.26	216 74.48
回答学部数	230	242	242	290

不明 = 295

不明 = 235

表7-7-8 肢体不自由学生の有無 軽度・重度別にみた聴覚障害学生への何らかの配慮の有無

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
行っている	76 35.02	54 22.50	86 36.75	67 23.51
何も行っていない	141 64.98	186 77.50	148 63.25	218 76.49
回答学部数	217	240	234	285

不明 = 310

不明 = 248

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮が何か1つでもされているかどうかと、「視覚障害の学生の在籍（現在過去を含めて）」との関係を見てゆく。

いずれの障害への配慮においても、重度の障害学生が在籍している場合の方が軽度の障害学生の在籍の場合よりも配慮率が高くなっている。全般的な配慮や視覚障害への配慮でその傾向は顕著である。

表7-7-9 視覚障害学生の有無 軽度・重度別にみた障害学生への何らかの配慮の有無

全般的な配慮(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの)

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
行っている	117 73.58	129 52.02	74 91.36	233 49.57
何も行っていない	42 26.42	119 47.98	7 8.64	237 50.43
回答学部数	159	248	81	470

不明 = 360

不明 = 216

表7-7-10 視覚障害学生の有無 軽度・重度別にみた肢体不自由学生への何らかの配慮の有無

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり・あった	在籍なし	在籍あり・あった	在籍なし
行っている	54 36.00	58 24.27	34 44.16	98 21.78
何も行っていない	96 64.00	181 75.73	43 55.84	352 78.22
回答学部数	150	239	77	450

不明 = 378

不明 = 240

表7-7-11 視覚障害学生の有無 軽度・重度別にみた視覚障害学生への何らかの配慮の有無

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり・あった	在籍なし	在籍あり・あった	在籍なし
行っている	89 58.17	60 24.69	74 90.24	98 21.68
何も行っていない	64 41.83	183 75.31	8 9.76	354 78.32
回答学部数	153	243	82	452

不明 = 371

不明 = 233

表7-7-12 視覚障害学生の有無 軽度・重度別にみた聴覚障害学生への何らかの配慮の有無

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり・あった	在籍なし	在籍あり・あった	在籍なし
行っている	68 47.89	60 25.00	44 61.11	104 23.16
何も行っていない	74 52.11	180 75.00	28 38.89	345 76.84
回答学部数	142	240	72	449

不明 = 385

不明 = 246

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮が何か1つでもされているかどうかと、「聴覚障害の学生の在籍（現在過去を含めて）」との関係を見てゆく。

いずれの障害への配慮においても、重度の障害学生が在籍している場合の方が軽度の障害学生の在籍の場合よりも配慮率が高くなっている。聴覚障害への配慮でその傾向がより顕著である。

表7-7-13 聴覚障害学生の有無 軽度・重度別にみた障害学生への何らかの配慮の有無
全般的な配慮（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
行っている	156 66.67	99 49.01	52 77.61	217 51.79
何も行っていない	78 33.33	103 50.99	15 22.39	202 48.21
回答学部数	234	202	67	419

不明 = 331

不明 = 281

表7-7-14 聴覚障害学生の有無 軽度・重度別にみた肢体不自由学生への何らかの配慮の有無

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
行っている	81 36.00	43 22.40	30 48.39	93 22.91
何も行っていない	144 64.00	149 77.60	32 51.61	313 77.09
回答学部数	225	192	62	406

不明 = 350

不明 = 299

表7-7-15 聴覚障害学生の有無 軽度・重度別にみた視覚障害学生への何らかの配慮の有無

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり・あった	在籍なし	在籍あり・あった	在籍なし
行っている	97 42.54	59 29.95	32 52.46	119 28.88
何も行っていない	131 57.46	138 70.05	29 47.54	293 71.12
回答学部数	228	197	61	412

不明 = 342

不明 = 294

表7-7-16 聴覚障害学生の有無 軽度・重度別にみた聴覚障害学生への何らかの配慮の有無

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり・あった	在籍なし	在籍あり・あった	在籍なし
行っている	109 47.39	33 17.93	38 61.29	94 23.50
何も行っていない	121 52.61	151 82.07	24 38.71	306 76.50
回答学部数	230	184	62	400

不明 = 353

不明 = 305

7-8 障害学生に対する配慮の内容—文系・理系別：国公立・私立別—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮の個々の項目と、学部の属性としての「文系・理系」「国公立・私立」との関係を見てゆく。

全般的な配慮では、「受講登録の優先的許可」「体育履修に配慮」で文系の方が理系よりも配慮の比率が高い。逆に、「実験・実習の危険防止」では理系の方が配慮で文系を上まわっている。次に、国公立・私立での比較では、「受講登録の優先的許可」「体育履修に配慮」などは私立が、「実験・実習の危険防止」は国公立での配慮の比率が若干高くなっている。

表7-8-1 文系・理系別および国公立・私立別にみた障害学生への配慮（項目別）
 全般的な配慮（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの）
 （複数回答）

	文系	理系	その他	国公立	私立
受講登録の優先的許可	33 8.59	4 1.96	3 5.36	7 3.63	33 7.32
体育履修に配慮	208 54.17	72 35.29	16 28.57	83 43.01	213 47.23
学生寮への優先的入居	11 2.86	4 1.96	2 3.57	4 2.07	13 2.88
カリキュラム編成上の配慮	18 4.69	5 2.45	2 3.57	8 4.15	17 3.77
単位認定方法に配慮	20 5.21	3 1.47	1 1.79	4 2.07	20 4.43
実験・実習の危険防止	23 5.99	31 15.20	8 14.29	22 11.40	40 8.87
大学の近くへ居住を指導	17 4.43	8 3.92	2 3.57	5 2.59	22 4.88
介助ガイドを学生に配布	15 3.91	3 1.47	2 3.57	1 0.52	19 4.21
キャンパスガイドの作成	2 0.52	3 1.47	0 0.00	2 1.04	3 0.67
その他	46 11.98	9 4.41	3 5.36	17 8.81	41 9.09
上記の配慮はしていない	140 37.04	113 55.94	34 61.82	88 46.32	199 44.72
Total	378	202	55	190	445

不明＝132

不明＝132

肢体不自由への配慮では、「学習補助機材の持込み」「試験時間の延長」で文系の方が理系よりもそして私立の方が国公立よりも「配慮を行っている」比率が高い。

視覚障害への配慮では、「学習補助機材の持込み」「講義方法の配慮」「（試験の時などに）点字や代筆の許可」「答案用紙の拡大」「代替問題の作成」「試験時間の延長」「点字出題・点字解答」などの項目で、文系の方が理系よりも、また私立が国公立よりも「配慮を行っている」比率が高い。

表7-8-2 文系・理系別および国公立・私立別にみた肢体不自由学生への配慮（項目別）
（複数回答）

	文系	理系	その他	国公立	私立
学習補助機材の持込み許可	71 19.56	20 10.05	5 9.62	20 10.81	76 17.72
代替問題の作成	16 4.41	4 2.01	1 1.92	4 2.16	17 3.96
補助による解答を認める	10 2.75	5 2.51	0 0.00	6 3.24	9 2.10
試験時間の延長	40 11.02	6 3.02	1 1.92	5 2.70	42 9.79
その他	31 8.54	14 7.04	2 3.85	17 9.19	30 6.99
上記の配慮はしていない	240 66.30	163 83.16	44 84.62	145 78.38	302 71.06
回答学部数	362	196	52	185	425

不明=157

不明=157

表7-8-3 文系・理系別および国公立・私立別にみた視覚障害学生への配慮（項目別）
（複数回答）

	文系	理系	その他	国公立	私立
点字による履修要綱	13 3.50	2 1.00	2 3.85	1 0.54	16 3.64
学習補助機材の持込み許可	83 22.37	13 6.50	9 17.31	21 11.41	84 19.13
講義方法の配慮	58 15.63	10 5.00	5 9.62	12 6.52	61 13.90
点字や代筆を許可	58 15.63	6 3.00	4 7.69	7 3.80	61 13.90
答案用紙の拡大	43 11.59	7 3.50	5 9.62	11 5.98	44 10.02
代替問題の作成	28 7.55	4 2.00	2 3.85	3 1.63	31 7.06
補助による解答を認める	11 2.96	1 0.50	0 0.00	1 0.54	11 2.51
試験時間の延長	60 16.17	7 3.50	4 7.69	13 7.07	58 13.21
点字出題・点字解答	67 18.06	6 3.00	3 5.77	10 5.43	66 15.03
その他	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
上記の配慮はしていない	218 58.76	161 80.50	39 75.00	135 73.37	283 64.46
回答学部数	371	200	52	184	439

不明=144

不明=144

聴覚障害への配慮では、「講義方法の配慮」で文系の方が理系よりも、また、私立の方が国公立よりも「配慮を行っている」比率が高い。

表7-8-4 文系・理系別および国公立・私立別にみた障害学生への配慮（項目別）
（複数回答）

	文系	理系	その他	国公立	私立
講義方法の 配慮	85 23.81	21 10.71	7 13.21	20 11.11	93 21.83
LL授業への 配慮	9 2.52	2 1.02	1 1.89	4 2.22	8 1.88
教員の手話 による講義	0 0.00	1 0.51	0 0.00	1 0.56	0 0.00
手話の通訳 による講義	16 4.48	3 1.53	2 3.77	4 2.22	17 3.99
その他	52 14.57	21 10.71	6 11.32	24 13.33	55 12.91
上記の配慮は していない	238 66.67	157 80.10	41 77.36	139 77.22	297 69.72
回答学部数	357	196	53	180	426

不明=161

不明=161

7-9 障害学生に対する配慮の内容—学部規模別・大学規模別—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮の個々の項目と、学部の属性としての「学生数でみた学部の規模」「学部数でみた大学の規模」との関係を見てゆく。

全般的な配慮では、「受講登録の優先的許可」「体育履修に配慮」で学部学生数が1000人以上になると「配慮を行っている」比率が高くなる。他の項目では学部規模による違いはあまり見られない。次に、学部数で見ると、「実験・実習の危険防止」は学部数が多くなるほど配慮の比率も高くなっている。「単位認定方法の配慮」は学部数3以下の小規模大学で配慮率が高くなっている。「受講登録の優先的許可」「体育履修に配慮」では学部数4-6の中規模大学が、他の規模の大学に比べて配慮率が高くなっている。

表7-9-1 学部規模別・大学規模別にみた障害学生への配慮（項目別）

全般的な配慮（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの）

（複数回答）

	～999	～1999	2000人～	単科大学	2～3	4～6	7 学部～
受講登録の優先的許可	3 1.39	18 8.74	19 9.18	7 4.52	5 2.94	22 11.70	5 4.20
体育履修に配慮	65 30.09	108 52.43	116 56.04	56 36.13	72 42.35	108 57.45	55 46.22
学生寮への優先的入居	4 1.85	7 3.40	6 2.90	5 3.23	6 3.53	5 2.66	1 0.84
カリキュラム編成上の配慮	4 1.85	10 4.85	11 5.31	4 2.58	8 4.71	8 4.26	5 4.20
単位認定方法に配慮	4 1.85	12 5.83	8 3.86	10 6.45	11 6.47	2 1.06	1 0.84
実験・実習の危険防止	22 10.19	18 8.74	21 10.14	10 6.45	15 8.82	19 10.11	18 15.13
大学の近くへ居住を指導	5 2.31	11 5.34	10 4.83	8 5.16	5 2.94	9 4.79	5 4.20
介助ガイドを学生に配布	4 1.85	9 4.37	6 2.90	5 3.23	1 0.59	5 2.66	9 7.56
キャンパスガイドの作成	2 0.93	3 1.46	0 0.00	1 0.65	1 0.59	1 0.53	2 1.68
その他	9 4.17	20 9.71	25 12.08	10 6.45	14 8.24	22 11.70	9 7.56
上記の配慮はしていない	139 64.95	72 35.47	72 35.47	81 54.00	80 47.62	69 36.70	52 44.44
回答学部数	214	203	203	150	168	188	117

不明=147

不明=144

肢体不自由への配慮では、「学習補助機材の持込み」が学生数1000人台の学部で配慮率が高く、「試験時間の延長」は学部学生数が1000人を超えると配慮率が高くなる。学部数で見ると、「学習補助機材の持込み」は単科大学が他に比べ低く、「代替問題の作成」「補助による解答を認める」「試験時間の延長」では学部数4-6で他に比べ「配慮を行っている」割合が高くなっている。

視覚障害への配慮では、学部学生数が多くなるほど、「学習補助機材の持込み」「講義方法の配慮」「（試験時などの）点字や代筆の許可」「答案用紙の拡大」「試験時間の延長」「点字出題・点字解答」で「配慮を行っている」が高くなる。学部数では「代替問題の作成」「試験時間の延長」「点字出題・点字解答」では4-6学部が他に比べ高い配慮率となっており、「講義方法の配慮」は4学部以上で配慮率が高い。

表7-9-2 学部規模別・大学規模別にみた肢体不自由学生への配慮（項目別）

（複数回答）

	～999	～1999	2000人～	単科大学	2～3	4～6	7学部～
学習補助機材の持込み許可	21 10.00	40 20.41	32 16.49	9 6.08	36 21.56	32 18.08	17 15.60
代替問題の作成	4 1.90	11 5.61	6 3.09	1 0.68	3 1.80	14 7.91	2 1.83
補助による解答を認める	2 0.95	7 3.57	6 3.09	2 1.35	1 0.60	10 5.65	2 1.83
試験時間の延長	8 3.81	19 9.69	20 10.31	7 4.73	11 6.59	24 13.56	4 3.67
その他	7 3.33	17 8.67	22 11.34	10 6.76	14 8.38	13 7.34	7 6.42
上記の配慮はしていない	177 85.10	127 64.80	133 69.27	125 85.62	113 68.48	118 66.67	83 76.15
回答学部数	208	196	192	146	165	177	109

不明＝171

不明＝170

表7-9-3 学部規模別・大学規模別にみた視覚障害学生への配慮（項目別）

（複数回答）

	～999	～1999	2000人～	単科大学	2～3	4～6	7学部～
点字による履修要綱	3 1.40	5 2.53	9 4.62	2 1.33	4 2.38	11 6.08	0 0.00
学習補助機材の持込み許可	27 12.56	36 18.18	41 21.03	17 11.33	26 15.48	31 17.13	28 25.45
講義方法の配慮	14 6.51	24 12.12	33 16.92	10 6.67	15 8.93	29 16.02	19 17.27
点字や代筆を許可	17 7.91	21 10.61	28 14.36	10 6.67	23 13.69	22 12.15	12 10.91
答案用紙の拡大	11 5.12	19 9.60	25 12.82	10 6.67	18 10.71	18 9.94	9 8.18
代替問題の作成	7 3.26	12 6.06	14 7.18	4 2.67	7 4.17	19 10.50	3 2.73
補助による解答を認める	2 0.93	4 2.02	6 3.08	3 2.00	6 3.57	1 0.55	2 1.82
試験時間の延長	18 8.37	23 11.62	30 15.38	14 9.33	14 8.33	31 17.13	10 9.09
点字出題・点字解答	19 8.84	25 12.63	31 15.90	9 6.00	18 10.71	32 17.68	15 13.64
その他	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
上記の配慮はしていない	166 77.21	120 60.61	122 62.56	113 75.33	112 66.67	120 66.30	65 59.09
Total	215	198	195	150	168	181	110

不明＝159

不明＝158

聴覚障害への配慮では、「講義方法の配慮」では学部学生数が1000人以上で1000人以下に比べ高率となる。学部数では4学部以上で学部数3以下の大学に比べ「講義方法の配慮」が高率となり、「通訳の手話による講義」は4-6学部で他に比べ高率になっている。

表7-9-4 学部規模別・大学規模別にみた聴覚障害学生への配慮（項目別）

（複数回答）

	～999	～1999	2000人～	単科大学	2～3	4～6	7学部～
講義方法の 配慮	22 10.58	42 21.65	44 23.16	22 14.97	27 16.46	39 22.54	24 21.82
LL授業への 配慮	4 1.92	3 1.55	5 2.63	4 2.72	4 2.44	2 1.16	2 1.82
教員の手話 による講義	1 0.48	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.58	0 0.00
通訳の手話 による講義	4 1.92	9 4.64	8 4.21	2 1.36	5 3.05	13 7.51	1 0.91
その他	19 9.13	26 13.40	32 16.84	12 8.16	24 14.63	18 10.40	22 20.00
上記の配慮は していない	172 82.69	133 68.56	123 64.74	116 78.91	117 71.34	122 70.52	73 66.36
回答学部数	208	194	190	147	164	173	110

不明=175

不明=173

7-10 障害学生に対する配慮の内容—地域別—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮の個々の項目と、「学部の所在地」との関係を見てゆく。

全般的な配慮では、「体育履修に配慮」が関東・北陸・関西で、「受講登録の優先的許可」が関西で、「実験・実習で（危険防止）の配慮」が関西・九州でそれぞれ他の地域に比べ高い配慮率となっている。

肢体不自由への配慮では、「代替問題の作成」は関西で、「試験時間の延長」は関西・四国で他の地域に比べ「配慮を行っている」割合が大きい。

視覚障害への配慮では、関西地域がほとんどすべての項目において他の地域よりも高い配慮率を示している。なお、「（試験時などに）点字や代筆を許可」「点字出題・点字解答」は関東でも他の地域に比べて高くなっている。

聴覚障害への配慮では、「講義方法の配慮」「手話通訳による講義」で関西が他の地域よりも高い配慮率を示している。

表7-10-1 学部の所在地－A別にみた障害学生への配慮（項目別）

全般的な配慮（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの）

（複数回答）

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
受講登録 優先許可	0 0.00	0 0.00	12 5.36	0 0.00	2 2.67	20 14.60	3 6.38	2 11.76	1 1.45
体育履修 に配慮	4 17.39	14 35.90	114 50.89	9 69.23	26 34.67	86 62.77	16 34.04	7 41.18	20 28.99
学生寮に 優先入居	0 0.00	1 2.56	5 2.23	0 0.00	4 5.33	6 4.38	0 0.00	1 5.88	0 0.00
カリキュラ ムに配慮	0 0.00	1 2.56	14 6.25	1 7.69	0 0.00	7 5.11	1 2.13	0 0.00	1 1.45
単位認定 に配慮	0 0.00	1 2.56	11 4.91	0 0.00	1 1.33	7 5.11	2 4.26	1 5.88	1 1.45
実験・実習 に配慮	0 0.00	5 12.82	4 1.79	2 15.38	3 4.00	27 19.71	6 12.77	1 5.88	14 20.29
大学近くに 居住	0 0.00	2 5.13	2 0.89	1 7.69	2 2.67	10 7.30	4 8.51	1 5.88	5 7.25
介助のガイ ドを配布	1 4.35	1 2.56	8 3.57	0 0.00	0 0.00	9 6.57	1 2.13	0 0.00	0 0.00
キャンパス ガイド配布	0 0.00	0 0.00	1 0.45	0 0.00	1 1.33	1 0.73	1 2.13	0 0.00	1 1.45
その他	2 8.70	1 2.56	24 10.71	0 0.00	4 5.33	21 15.33	4 8.51	1 5.88	1 1.45
上記の配慮 はない	16 69.57	19 48.72	92 42.20	4 30.77	48 64.86	33 24.26	23 48.94	10 62.50	42 60.87
Total	23	39	218	13	74	136	47	16	69

不明 = 132

表7-10-2 学部の所在地－A別にみた肢体不自由学生への配慮（項目別）

（複数回答）

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
学習補助機 材持込許可	2 8.00	7 17.50	29 14.08	1 7.14	5 6.94	25 19.69	9 19.57	3 17.65	15 22.39
代替問題 の作成	0 0.00	0 0.00	2 0.97	0 0.00	5 6.94	12 9.45	0 0.00	1 5.88	1 1.49
補助による 解答	0 0.00	0 0.00	3 1.46	0 0.00	0 0.00	8 6.30	1 2.17	1 5.88	2 2.99
試験時間の 延長	0 0.00	0 0.00	10 4.85	0 0.00	8 11.11	22 17.32	2 4.35	4 23.53	1 1.49
その他	2 8.00	1 2.50	21 10.19	1 7.14	2 2.78	12 9.45	6 13.04	0 0.00	2 2.99
上記の配慮 はない	21 84.00	32 80.00	154 75.49	12 85.71	57 79.17	82 64.57	31 70.45	9 52.94	49 73.13
回答学部数	25	40	204	14	72	127	44	17	67

不明 = 157

表7-10-3 学部所在地－A別にみた視覚障害学生への配慮（項目別）

（複数回答）

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
点字の履修要綱	0 0.00	0 0.00	6 2.83	0 0.00	0 0.00	11 8.33	0 0.00	0 0.00	0 0.00
学習補助機材持込許可	0 0.00	5 12.82	36 16.98	1 7.69	3 4.17	38 28.79	5 11.11	3 17.65	14 20.90
講義方法の配慮	0 0.00	0 0.00	28 13.21	1 7.69	2 2.78	30 22.73	5 11.11	1 5.88	6 8.96
点字や代筆を許可	0 0.00	1 2.56	30 14.15	0 0.00	2 2.78	26 19.70	5 11.11	0 0.00	4 5.97
答案用紙の拡大	0 0.00	0 0.00	10 4.72	0 0.00	2 2.78	34 25.76	5 11.11	1 5.88	3 4.48
代替問題の作成	0 0.00	1 2.56	5 2.36	0 0.00	5 6.94	17 12.88	2 4.44	0 0.00	4 5.97
補助による解答	0 0.00	1 2.56	5 2.36	0 0.00	1 1.39	5 3.79	0 0.00	0 0.00	0 0.00
試験時間の延長	0 0.00	1 2.56	23 10.85	0 0.00	7 9.72	32 24.24	5 11.11	1 5.88	2 2.99
点字出題 点字解答	0 0.00	1 2.56	34 16.04	0 0.00	9 12.50	27 20.45	2 4.44	0 0.00	3 4.48
その他	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
上記の配慮はない	22 84.62	32 82.05	143 67.45	11 84.62	55 76.39	63 47.73	31 68.89	12 70.59	49 73.13
回答学部数	26	39	212	13	72	132	45	17	67

不明 = 144

表7-10-4 学部所在地－A別にみた聴覚障害学生への配慮（項目別）

（複数回答）

	北海道	東北	関東	北陸	中部	関西	中国	四国	九州
講義方法の配慮	0 0.00	4 11.11	40 19.42	2 15.38	9 12.16	45 36.29	4 9.52	3 17.65	6 8.82
LL授業の配慮	0 0.00	1 2.78	4 1.94	2 15.38	0 0.00	5 4.03	0 0.00	0 0.00	0 0.00
教員の手話講義	0 0.00	0 0.00	1 0.49	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
手話通訳の講義	2 7.69	0 0.00	6 2.91	0 0.00	0 0.00	13 10.48	0 0.00	0 0.00	0 0.00
その他	2 7.69	4 11.11	31 15.05	2 15.38	4 5.41	29 23.39	5 11.90	0 0.00	2 2.94
上記の配慮はない	22 84.62	30 83.33	144 69.90	9 69.23	61 82.43	63 50.81	33 78.57	14 82.35	60 88.24
回答学部数	26	36	206	13	74	124	42	17	68

不明 = 161

7-11 障害学生に対する配慮の内容—共学・女子のみ別：非宗教系・宗教系別—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮の個々の項目と、学部の属性としての「共学・女子のみ」「非宗教系・宗教系」との関係について見てゆく。

まず、全般的な配慮を見ると、共学と女子の比較では、「単位認定方法に配慮」が女子のみで、「受講登録の優先的許可」が共学でそれぞれ他方よりやや配慮率が高くなっているが、そのほかはほとんど差が見られない。また、非宗教系と宗教系の比較では、「受講登録の優先的許可」「体育履修に配慮」では宗教系が非宗教系よりも配慮率が高い。宗教系の中でも「受講登録の優先的許可」「実験・実習の危険防止」では仏教系の方が、「体育履修に配慮」「介助ガイドを学生に配布」ではキリスト教系の方が高い配慮率を示している。

表7-11-1 共学・女子別および非宗教系・宗教系別にみた障害学生への配慮（項目別）
全般的な配慮（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの）

（複数回答）

	共学	女子大	宗教とは 無関係	仏教	キリスト教	その他の 宗教
受講登録の 優先的許可	37 6.61	2 2.86	22 4.58	7 17.95	6 9.09	0 0.00
体育履修に 配慮	261 46.61	30 42.86	205 42.71	21 53.85	52 78.79	1 16.67
学生寮への 優先的入居	14 2.50	3 4.29	13 2.71	3 7.69	1 1.52	0 0.00
カリキュラム 編成上の配慮	21 3.75	4 5.71	20 4.17	0 0.00	3 4.55	0 0.00
単位認定方法 に配慮	18 3.21	6 8.57	16 3.33	2 5.13	5 7.58	0 0.00
実験・実習 の危険防止	55 9.82	7 10.00	44 9.17	9 23.08	5 7.58	0 0.00
大学近くへ 居住を指導	26 4.64	1 1.43	18 3.75	2 5.13	6 9.09	0 0.00
介助ガイドを 学生に配布	18 3.21	2 2.86	1 0.21	0 0.00	17 25.76	0 0.00
キャンパス ガイドの作成	4 0.71	1 1.43	1 0.21	1 2.56	2 3.03	0 0.00
その他	48 8.57	7 10.00	39 8.13	2 5.13	9 13.64	0 0.00
上記の配慮 はない	248 44.29	32 45.71	232 48.33	17 43.59	8 12.12	5 83.33
回答学部数	560	70	480	39	66	6

不明 = 137

不明 = 176

肢体不自由への配慮では、「学習補助機材の持込み許可」「試験時間の延長」で共学の方が高い配慮率になっている。「学習補助機材の持込み許可」は仏教・キリスト教系で、また、それ以外はキリスト教系がいずれの項目においても一番高い配慮率を示している。

表7-11-2 共学・女子別および非宗教系・宗教系別にみた肢体不自由学生への配慮（項目別）
（複数回答）

	共学	女子大	宗教とは 無関係	仏教	キリスト教	その他の 宗教
学習補助機材 の持込み許可	89 16.67	5 7.69	57 12.47	11 28.95	18 28.12	1 16.67
代替問題の 作成	20 3.75	0 0.00	8 1.75	0 0.00	12 18.75	0 0.00
補助による 解答を認める	15 2.81	0 0.00	6 1.31	1 2.63	6 9.38	0 0.00
試験時間の 延長	44 8.24	2 3.08	21 4.60	5 13.16	19 29.69	0 0.00
その他	39 7.32	5 7.81	38 8.33	1 2.70	3 4.69	0 0.00
上記の配慮 はない	382 71.54	55 84.62	349 76.37	23 60.53	36 56.25	5 83.33
回答学部数	534	65	457	38	64	6

不明 = 168

不明 = 202

視覚障害への配慮では、「点字出題・点字解答」で共学の方が配慮率が高いほかは、あまり差はみられない。宗教系・非宗教系では、宗教系の方が配慮率が高い。「点字による履修要綱」と「答案用紙の拡大」は仏教系の方が、それ以外では、いずれもキリスト教系の方が「配慮を行っている」割合が大きくなっている。

聴覚障害への配慮では、「講義方法の配慮」で女子のみの方がやや高い配慮率である。また、「講義方法の配慮」ではキリスト教系および仏教系が、「通訳による手話での講義」では仏教系が高い配慮率を示している。

表7-11-3 共学・女子別および非宗教系・宗教系別にみた視覚障害学生への配慮（項目別）
（複数回答）

	共学	女子大	宗教とは 無関係	仏教	キリスト教	その他の 宗教
点字による 履修要綱	18 3.34	0 0.00	5 1.09	9 23.68	4 5.88	0 0.00
学習補助機材 の持込み許可	96 17.81	12 17.65	65 14.13	11 28.95	28 41.18	0 0.00
講義方法の 配慮	68 12.62	10 14.71	44 9.57	9 23.68	23 33.82	0 0.00
点字や代筆を 許可	62 11.50	8 11.76	28 6.09	11 28.95	28 41.18	0 0.00
答案用紙の 拡大	52 9.65	5 7.35	35 7.61	9 23.68	10 14.71	0 0.00
代替問題の 作成	30 5.57	5 7.35	9 1.96	6 15.79	20 29.41	0 0.00
補助による 解答を認める	11 2.04	2 2.94	8 1.74	0 0.00	5 7.35	0 0.00
試験時間の 延長	68 12.62	8 11.76	38 8.26	10 26.32	25 36.76	0 0.00
点字出題 点字解答	74 13.73	5 7.35	34 7.39	13 34.21	29 42.65	0 0.00
その他	41 7.61	7 10.29	36 7.83	3 7.89	6 8.82	0 0.00
上記の配慮 はない	364 67.53	44 64.71	331 71.96	23 60.53	24 35.29	6 100.00
回答学部数	539	68	460	38	68	6

不明 = 160

不明 = 195

表7-11-4 共学・女子別および非宗教系・宗教系別にみた聴覚障害学生への配慮（項目別）
（複数回答）

	共学	女子大	宗教とは 無関係	仏教	キリスト教	その他の 宗教
講義方法の 配慮	97 18.44	15 22.73	66 14.60	12 31.58	25 40.32	0 0.00
LL授業への 配慮	11 2.09	1 1.52	11 2.43	0 0.00	1 1.61	0 0.00
教員の手話 による講義	1 0.19	0 0.00	1 0.22	0 0.00	0 0.00	0 0.00
通訳による 手話での講義	18 3.42	3 4.55	11 2.43	6 15.79	3 4.84	0 0.00
その他	65 12.36	11 16.67	56 12.39	3 7.89	12 19.35	0 0.00
上記の配慮 はない	384 73.00	43 65.15	344 76.11	25 65.79	31 50.00	6 100.00
回答学部数	526	66	452	38	62	6

不明 = 175

不明 = 209

7-12 障害学生に対する配慮の内容—障害学生の在籍（障害種類別・軽重度別）—

ここでは、障害を持つ学生に対する配慮の個々の項目と、「障害を持つ学生の在籍（現在過去を含めて）」との関係を見てゆく。

3つの障害種類すべてを合わせての障害者の在籍の有無を見てみると、ほとんどの配慮項目（全般的な配慮・肢体不自由への配慮・視覚障害への配慮・聴覚障害への配慮をすべて合わせて）について、重度の障害者の在籍する学部では、軽度の障害者が在籍する学部比べて配慮率が高くなっている。特に全般的配慮の「体育履修に配慮」、視覚障害への配慮の「点字・代筆の許可」「点字出題・点字解答」でその傾向は顕著である。

表7-12-1 障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
全般的な配慮（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの）
肢体不自由・視覚障害・聴覚障害すべてを合わせて（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
受講登録の 優先的許可	29 7.80	4 3.12	30 10.07	8 3.57
体育履修に 配慮	207 55.65	38 29.69	187 62.75	65 29.02
学生寮への 優先的入居	15 4.03	0 0.00	15 5.03	1 0.45
カリキュラム 編成上の配慮	14 3.76	3 2.34	15 5.03	6 2.68
単位認定方法 に配慮	18 4.84	4 3.12	18 6.04	5 2.23
実験・実習 の危険防止	45 12.10	9 7.03	37 12.42	14 6.25
大学近くへ 居住を指導	21 5.65	4 3.12	19 6.38	4 1.79
介助のガイド を学生に配布	19 5.11	1 0.78	18 6.04	2 0.89
キャンパス ガイドの作成	4 1.08	1 0.78	5 1.68	0 0.00
その他	32 8.60	12 9.38	33 11.07	17 7.59
上記の配慮 はない	127 34.14	77 60.16	76 25.50	141 62.95
回答学部数	372	128	298	224

不明 = 267

不明 = 245

表7-12-2 肢体不自由学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
 肢体不自由・視覚障害・聴覚障害すべてを合わせて（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
学習補助機材 の持込み許可	71 20.00	11 9.02	65 22.57	15 7.18
代替問題の 作成	15 4.23	2 1.64	15 5.21	1 0.48
補助による 解答を認める	11 3.10	3 2.46	14 4.86	0 0.00
試験時間の 延長	37 10.42	4 3.28	34 11.81	3 1.44
その他	31 8.73	8 6.56	31 10.76	10 4.78
上記の配慮 はない	235 66.20	102 83.61	178 61.81	183 87.56
回答学部数	355	122	288	209

不明 = 290

不明 = 270

表7-12-3 視覚障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
 肢体不自由・視覚障害・聴覚障害すべてを合わせて（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
点字による 履修要綱	12 3.34	1 0.79	13 4.48	2 0.93
学習補助機材 の持込み許可	78 21.73	12 9.52	75 25.86	14 6.51
講義方法の 配慮	61 16.99	6 4.76	55 18.97	12 5.58
点字・代筆 を許可	54 15.04	9 7.14	60 20.69	6 2.79
答案用紙の 拡大	46 12.81	6 4.76	36 12.41	12 5.58
代替問題の 作成	25 6.96	3 2.38	27 9.31	2 0.93
補助による 解答を認める	10 2.79	2 1.59	11 3.79	1 0.47
試験時間の 延長	54 15.04	8 6.35	52 17.93	10 4.65
点字出題 点字解答	57 15.88	7 5.56	63 21.72	5 2.33
その他	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
上記の配慮 はない	210 58.50	100 79.37	155 53.45	177 82.33
回答学部数	359	126	290	215

不明 = 282

不明 = 262

表7-12-4 聴覚障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
 肢体不自由・視覚障害・聴覚障害すべてを合わせて（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
講義方法の 配慮	94 27.01	8 6.50	76 27.34	18 8.45
LL授業へ の配慮	10 2.87	1 0.81	7 2.52	2 0.94
教員の手話 による講義	1 0.29	0 0.00	1 0.36	0 0.00
手話の通訳 による講義	18 5.17	1 0.81	15 5.40	3 1.41
その他	58 16.67	12 9.76	56 20.14	15 7.04
上記の配慮 はない	217 62.36	104 84.55	166 59.71	180 84.51
回答学部数	348	123	278	213

不明 = 296

不明 = 276

肢体不自由学生の在籍の有無と配慮項目の関係を見てみると、全般的な配慮の「体育履修に配慮」「実験・実習の危険防止」で、重度の障害を持つ学生の在籍する学部で配慮率が高いことがわかる。肢体不自由への配慮、視覚障害への配慮、聴覚障害への配慮では、軽度と重度とでは配慮率の差はほとんどない。

視覚障害学生の在籍の有無と配慮項目の関係を見てみると、ほとんどの配慮項目（全般的な配慮・肢体不自由への配慮・視覚障害への配慮・聴覚障害への配慮をすべて合わせて）について、重度の障害者の在籍する学部では、軽度の障害者が在籍する学部に比べて配慮率が高くなっている。特に、全般的な配慮の「体育履修に配慮」「介助ガイドを学生に配布」、肢体不自由への配慮の「試験時間の延長」、視覚障害への配慮の「学習補助機材の持込み許可」「講義方法の配慮」「点字・代筆を許可」「代替問題の作成」「試験時間の延長」「点字出題・点字解答」、などにおいてその傾向は顕著である。

聴覚障害学生の在籍の有無と配慮項目の関係を見てみると、重度の障害者の在籍している学部では、軽度の障害者の在籍している学部と比べて、視覚障害への配慮と聴覚障害への配慮の項目の多くにおいて高い配慮率を示している。

表7-12-5 障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
 全般的な配慮(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの)
 肢体不自由 (複数回答)

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
受講登録の 優先的許可	20 8.55	13 5.16	27 10.84	12 4.01
体育履修に 配慮	143 61.11	80 31.75	163 65.46	93 31.10
学生寮への 優先的入居	13 5.56	1 0.40	11 4.42	6 2.01
カリキュラム 編成上の配慮	8 3.42	10 3.97	14 5.62	7 2.34
単位認定方法 に配慮	11 4.70	10 3.97	13 5.22	9 3.01
実験・実習の 危険防止	24 10.26	19 7.54	36 14.46	17 5.69
大学近くへ 居住を指導	15 6.41	10 3.97	17 6.83	6 2.01
介助ガイドを 学生に配布	16 6.84	3 1.19	16 6.43	4 1.34
キャンパス ガイドの作成	3 1.28	1 0.40	5 2.01	0 0.00
その他	21 8.97	17 6.75	27 10.84	23 7.69
上記の配慮 はない	70 30.57	148 59.20	63 25.82	176 59.66
回答学部数	229	250	244	295

不明 = 288

不明 = 228

表7-12-6 肢体不自由学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
 肢体不自由 (複数回答)

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
学習補助機材 の持込み許可	46 20.26	24 10.21	56 22.76	31 11.07
代替問題の 作成	11 4.85	5 2.13	12 4.88	3 1.07
補助による 解答を認める	8 3.52	3 1.28	13 5.28	1 0.36
試験時間の 延長	29 12.78	8 3.40	26 10.57	13 4.64
その他	20 8.81	14 5.96	25 10.16	18 6.43
上記の配慮は ない	145 64.44	195 82.98	154 63.64	224 80.00
回答学部数	225	235	242	280

不明 = 307

不明 = 245

表7-12-7 視覚障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
肢体不自由（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
点字による 履修要綱	11 4.78	3 1.24	12 4.96	3 1.03
学習補助機材 の持込み許可	58 25.22	24 9.92	55 22.73	35 12.07
講義方法の 配慮	44 19.13	18 7.44	44 18.18	23 7.93
点字や代筆 を許可	45 19.57	18 7.44	44 18.18	21 7.24
答案用紙の 拡大	29 12.61	12 4.96	31 12.81	19 6.55
代替問題の 作成	22 9.57	5 2.07	21 8.68	6 2.07
補助による 解答を認める	8 3.48	4 1.65	8 3.31	4 1.38
試験時間の 延長	41 17.83	18 7.44	36 14.88	25 8.62
点字出題 点字解答	47 20.43	18 7.44	47 19.42	18 6.21
その他	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
上記の配慮 はない	134 58.26	187 77.27	141 58.26	216 74.48
回答学部数	230	242	242	290

不明 = 295

不明 = 235

表7-12-8 聴覚障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
肢体不自由（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
講義方法の 配慮	51 23.50	38 15.83	61 26.07	39 13.68
LL授業の 配慮	7 3.23	3 1.25	4 1.71	5 1.75
教員の手話 講義	1 0.46	0 0.00	1 0.43	0 0.00
通訳の手話 講義	13 5.99	5 2.08	10 4.27	9 3.16
その他	41 18.89	21 8.75	44 18.80	29 10.18
上記の配慮 はない	141 64.98	186 77.50	148 63.25	218 76.49
回答学部数	217	240	234	285

不明 = 310

不明 = 248

表7-12-9 障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
 全般的な配慮（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの）
 視覚障害（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
受講登録の優先的許可	13 8.18	17 6.85	9 11.11	25 5.32
体育履修に配慮	104 65.41	98 39.52	65 80.25	192 40.85
学生寮への優先的入居	11 6.92	4 1.61	8 9.88	6 1.28
カリキュラム編成上の配慮	6 3.77	11 4.44	5 6.17	19 4.04
単位認定方法に配慮	8 5.03	12 4.84	7 8.64	14 2.98
実験・実習の危険防止	14 8.81	27 10.89	8 9.88	39 8.30
大学近くへ居住を指導	9 5.66	12 4.84	6 7.41	16 3.40
介助ガイドを学生に配布	15 9.43	4 1.61	14 17.28	6 1.28
キャンパスガイドの作成	3 1.89	2 0.81	2 2.47	3 0.64
その他	18 11.32	24 9.68	9 11.11	37 7.87
上記の配慮はない	42 27.10	119 48.77	7 9.09	237 50.86
回答学部数	155	244	77	466

不明 = 368

不明 = 224

表7-12-10 肢体不自由学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
 視覚障害（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
学習補助機材の持込み許可	31 20.67	35 14.64	21 27.27	55 12.22
代替問題の作成	9 6.00	4 1.67	9 11.69	7 1.56
補助による解答を認める	8 5.33	5 2.09	6 7.79	5 1.11
試験時間の延長	24 16.00	9 3.77	20 25.97	19 4.22
その他	11 7.33	20 8.37	4 5.19	34 7.56
上記の配慮はない	96 64.43	181 76.05	43 55.84	352 78.57
回答学部数	149	238	77	448

不明 = 380

不明 = 242

表7-12-11 視覚障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
視覚障害（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
点字による 履修要綱	11 7.19	2 0.82	12 14.63	3 0.66
学習補助機材 の持込み許可	51 33.33	28 11.52	54 65.85	37 8.19
講義方法の 配慮	45 29.41	17 7.00	39 47.56	27 5.97
点字・代筆 を許可	43 28.10	18 7.41	51 62.20	14 3.10
答案用紙の 拡大	40 26.14	7 2.88	21 25.61	28 6.19
代替問題の 作成	19 12.42	6 2.47	22 26.83	7 1.55
補助による 解答を認める	9 5.88	3 1.23	7 8.54	5 1.11
試験時間の 延長	41 26.80	13 5.35	40 48.78	24 5.31
点字出題 点字解答	42 27.45	14 5.76	53 64.63	14 3.10
その他	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
上記の配慮 はない	64 41.83	183 75.31	8 9.76	354 78.32
回答学部数	153	243	82	452

不明 = 371

不明 = 233

表7-12-12 聴覚障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
聴覚障害（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
講義方法の 配慮	53 37.32	37 15.42	34 47.22	65 14.48
LL授業への 配慮	5 3.52	5 2.08	2 2.78	8 1.78
教員の手話に よる講義	1 0.70	0 0.00	1 1.39	0 0.00
手話通訳に よる講義	13 9.15	4 1.67	8 11.11	11 2.45
その他	27 19.01	33 13.75	20 27.78	49 10.91
上記の配慮は ない	74 52.11	180 75.00	28 38.89	345 76.84
回答学部数	142	240	72	449

不明 = 385

不明 = 246

表7-12-13 障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
 全般的な配慮（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害に共通のもの）
 聴覚障害（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
受講登録の 優先的許可	16 6.84	11 5.45	4 5.97	25 5.97
体育履修に 配慮	131 55.98	77 38.12	45 67.16	177 42.24
学生寮への 優先的入居	10 4.27	5 2.48	6 8.96	7 1.67
カリキュラム 編成上の配慮	9 3.85	8 3.96	5 7.46	14 3.34
単位認定方法 に配慮	13 5.56	9 4.46	6 8.96	16 3.82
実験・実習の 危険防止	29 12.39	19 9.41	7 10.45	35 8.35
大学の近くへ 居住を指導	14 5.98	9 4.46	5 7.46	18 4.30
介助ガイドを 学生に配布	17 7.26	3 1.49	3 4.48	17 4.06
キャンパス ガイドの作成	2 0.85	3 1.49	2 2.99	3 0.72
その他	17 7.26	21 10.40	4 5.97	36 8.59
上記の配慮 はない	78 34.06	103 50.99	15 23.44	202 48.67
回答学部数	229	202	64	415

不明 = 336

不明 = 288

表7-12-14 肢体不自由学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
 聴覚障害（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
学習補助機材 の持込み許可	49 21.78	25 13.02	17 27.42	57 14.04
代替問題の 作成	7 3.11	8 4.17	3 4.84	12 2.96
補助による 解答を認める	6 2.67	5 2.60	3 4.84	8 1.97
試験時間の 延長	21 9.33	12 6.25	10 16.13	23 5.67
その他	22 9.78	13 6.77	8 12.90	29 7.14
上記の配慮は ない	144 65.16	149 77.60	32 52.46	313 77.28
回答学部数	221	192	61	405

不明 = 354

不明 = 301

表7-12-15 視覚障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
聴覚障害（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
点字による 履修要綱	7 3.07	3 1.52	7 11.48	5 1.21
学習補助機材 の持込み許可	54 23.68	25 12.69	21 34.43	54 13.11
講義方法の 配慮	45 19.74	15 7.61	18 29.51	42 10.19
点字・代筆 を許可	38 16.67	20 10.15	17 27.87	39 9.47
答案用紙の 拡大	27 11.84	16 8.12	15 24.59	26 6.31
代替問題の 作成	15 6.58	10 5.08	9 14.75	15 3.64
補助による 解答を認める	6 2.63	6 3.05	4 6.56	7 1.70
試験時間の 延長	32 14.04	18 9.14	17 27.87	34 8.25
点字出題 点字解答	41 17.98	14 7.11	20 32.79	36 8.74
その他	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
上記の配慮 はない	131 57.46	138 70.05	29 47.54	293 71.12
回答学部数	228	197	61	412

不明 = 342

不明 = 294

表7-12-16 聴覚障害学生への配慮（項目別）と障害学生の在籍
聴覚障害（複数回答）

	軽度障害者		重度障害者	
	在籍あり ・あった	在籍なし	在籍あり ・あった	在籍なし
講義方法の 配慮	83 36.09	12 6.52	30 48.39	55 13.75
LL授業への 配慮	7 3.04	3 1.63	6 9.68	4 1.00
教員の手話 による講義	1 0.43	0 0.00	1 1.61	0 0.00
手話の通訳 による講義	15 6.52	2 1.09	10 16.13	8 2.00
その他	48 20.87	22 11.96	15 24.19	49 12.25
上記の配慮は ない	121 52.61	151 82.07	24 38.71	306 76.50
回答学部数	230	184	62	400

不明 = 353

不明 = 305

引用・参考文献

- 天野・大西・佐藤・都築, 「障害者の高等教育に関する調査研究」
流通経済大学出版会 1990年
- 天野栄一, 「障害者の受け入れ経験からみた受け入れの実際」
流通経済大学社会学部論叢 第2巻 第2号 pp.67-77 1992年
- 大西 哲, 「障害者受け入れ仮説と学部の実況—5 大要因と学部の類型—」
流通経済大学社会学部論叢 第2巻 第2号 pp.79-114 1992年
- 佐藤尚人, 「『障害者の受け入れについての大学による意志決定』に関する研究」
流通経済大学社会学部論叢 第2巻 第2号 pp.115-124 1992年
- 都築一治, 「障害者受け入れに関する大学の意思決定システムと意思決定環境についての
考察」 流通経済大学社会学部論叢 第2巻 第2号 pp.125-139 1992年
- 天野・大西・佐藤・都築, 「『障害者の高等教育に関する全国調査'93』分析結果資料」
流通経済大学社会学部論叢 第4巻 第2号 pp.119-170 1994年